学修ポートフォリオシステムの導入・活用等の参考指針

平成 29 年 5 月 31 日

公益社団法人 私立大学情報教育協会
大学情報システム研究委員会

目　次

まえがき ---------- 1

１．学修ポートフォリオに対する理解の促進に向けて
　１．１　学修ポートフォリオをめぐる状況 ---------- 2
　１．２　学修ポートフォリオに関する基本的な考え方 ---------- 3
　１．３　提言 ---------- 3

２．学修ポートフォリオ導入に向けた共通理解の促進策
　２．１　シラバスを通じて学生に呼びかけるための工夫 ---------- 4
　２．２　学士力の修得状況を自己点検できるようにするためのワークシートの
　　構成とその例示 ---------- 5
　２．３　学士力の獲得に不安を抱える学生を対象とした学修支援方法の留意点 --- 6
　２．４　振り返りに対する教員のコメントをフィードバックする際の留意点------ 7
　　関連資料：ワークシート ---------- 8

３．学修ポートフォリオ情報の活用対策と教職員の関わり方
　３．１　授業の有効性を点検・評価するための学修ポートフォリオ活用の留意点 - 14
　３．２　授業価値を振り返るためのティーチング・ポートフォリオの導入 ------ 15
　３．３　学修ポートフォリオによる教育プログラム有効性の点検 ---------- 16
　３．４　学修ボートフォリオによる学生の負担軽減のための教学マネジメント対策 17
　３．５　教職員の行動変革を推進する取り組みの留意点 ---------- 17

４．ｅポートフォリオシステム構築に伴う留意点
　４．１　ｅポートフォリオシステムでとりあげるべき最小限必要な機能 -------- 18
　４．２　ｅポートフォリオシステムに求められる利便性 ---------- 23
　４．３　ｅポートフォリオシステム利用上の留意点 ---------- 24
　４．４　ｅポートフォリオデータのＩＲシステムへの接続 ---------- 25
　４．５　ｅポートフォリオシステムの導入形態 ---------- 27
　４．６　ｅポートフォリオ運用上の課題と負担を軽減する工夫等 ---------- 28

参考
　ｅポートフォリオシステム導入事例の紹介 ---------- 29

まえがき

大学では、三つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の策定と公表が義務化され、全ての教職員がどのような教育を行い、どのような人材を輩出するのかを、学修成果の観点から把握・評価を行い、その結果を教育活動の改善・進化につなげるという改革サイクルの定着を通じて、教学マネジメントの確立が急がれている。大学教育の質的転換に向けて、社会から教育の質保証について高い期待が寄せられており、卒業時の学修成果を客観的に提示するディプロマ・サプリメント等学修成果の可視化への説明責任がいま問われている。

その仕組みの一つとして、学生自身による学修の達成状況を点検・改善するツールとしての学修ポートフォリオの導入と、教員自身による授業の達成状況を点検・改善するツールとしてのティーチング・ポートフォリオの導入、及び教学データを組み合わせた教学ＩＲの整備が不可欠となっている。

とりわけ大学は、学士力の達成に向けて、学生の学修状況の履歴と学修成果の蓄積などの学修ポートフォリオ情報を活用し、学修の過程及び教育の過程を「可視化」することで、学生一人ひとりに対してきめ細かい学修支援が求められている。しかし、これまで学修ポートフォリオの意義・目的及びメリットが、学生・教職員に十分認識されていないこともあり、期待された以上の成果が報告されていない。

そこで本協会では、学修ポートフォリオの導入促進と有効活用の方策について５年に亘り検討した結果、①シラバスの中で上級生・卒業生から動画・音声で学生に呼びかける工夫、②ワークシートやCan-doリストによる学修状況の確認、③教員コメントの迅速なフィードバック、④授業価値を振り返る簡便なティーチング・ポートフォリオの導入、⑤学修ポートフォリオと教学データを組み合わせた教学ＩＲシステムとの接続、⑥初年次教育用・達成度振り返り用・キャリア用ポートフォリオの構築、⑦シングルサインオン、モバイル端末対応、学修に不安を抱える学生の相談・助言体制、⑧ｅポートフォリオシステムの導入事例と課題などに配慮した「学修ポートフォリオシステムの導入・活用等の参考指針」をとりまとめることができた。

参考指針のとりまとめを通じて、学生に学修ポートフォリオで振り返りを求める反面、最良の教育を学生に提供できるよう、教員自身が授業の価値や授業設計・運営について振り返りを行い、その結果を踏まえて教育プログラムの充実に主体的に関与していく姿勢が改めて教員一人ひとりに求められてくることを再確認した。

いま大学には、学長のリーダーシップの下、教育改革の推進が要請されているが、それには、教職員の意識改革とステークホルダーを含めたオープンな教育システムの構築が喫緊の課題となっている。

ここに、５年に亘り本問題について研究を続けてこられた大学情報システム研究委員会の方々のお力添えに厚く御礼申し上げる。また、事例情報の提供を快く協力いただいた大学関係者に対して感謝を申し上げる。

願わくは、この参考指針が契機となって、教育のアセスメントシステムとして学修ポートフォリオが普及され、教育の質保証にいささかなりとも寄与することができるならば、望外の幸せである。

大学情報システム研究委員会
担当理事　大野　髙裕
委員長　　岩井　　洋

１．学修ポートフォリオに対する理解の促進に向けて

1.1　学修ポートフォリオをめぐる状況

（１）背景

中央教育審議会の「学士課程答申」では、卒業認定における評価の厳格化を大きな課題としている。評価の厳格化は卒業時点に限定することなく、入学してからの教育過程の成績評価について学生の成長という観点から考えることが重要であるとし、教員間の共通理解の下で組織的に学修の評価に当たっていくことが強く求められている。評価に当たっては、多様な学修活動の成果を評価する観点から、学生の学修履歴などの記録と自己管理のための仕組みを整備することが不可欠であるとしている。その上で、学修成果の効果的な達成を促す仕組みとして、学生自身が学修の達成状況を点検し、振り返りを通じて自律的に学修する習慣を身につける学修ポートフォリオの導入と、大学がこの情報を踏まえてきめ細かな履修指導や学修支援の実施に活用することを提言している。また、平成24年8月の中央教育審議会答申（「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」）においても、速やかに取り組むことが求められる課題として、学修ポートフォリオなどの導入が指摘されている。このような、教育の質的転換に向けた改革努力について、国は平成29年度までの「大学改革実行プラン」の中で、改革方策の実現に向けた取り組みを大学に求めている。

（２）学修ポートフォリオ導入の現状

学修ポートフォリオを導入している大学の多くは、その目的や意義について、十分に学生・教職員の理解が得られていないこともあり、期待した以上には教育改善の成果がみられていない。

以下に、大学組織・教職員・学生における主な問題点を列挙する。

【学生の問題点】

- ポートフォリオの意義・目的及びメリットが理解されていない。
- 効果的な学修方法を身につけようとしない。
- 学修状況の書き込みを継続しない。

【教職員の問題点】

- 学生にポートフォリオのメリットを理解させられない。
- 教育プログラムの評価に反映する方法がわからない。
- 学生の評価にポートフォリオをどのように活用すべきかわからない。
- 学生の記録や自己評価にフィードバックをしない、コメントの仕方がわからない。

【大学組織での問題点】

- 導入目的や意義が組織として十分に認識・共有されていない。
- 組織的に活用する体制が確立されていない。
- 活用を促進するための仕組みがない。
- 継続的に運営するための財政的基盤・設備・人的資源がない。

以上、問題点を整理すると、大学全体としてポートフォリオの意義・目的及びメリットが理解されていない、学修成果の書き込みが継続されず期待した以上には効果的な学修方法が身についていない、ポートフォリオに記載した学修内容の真実性を教員が判断することが困難、教育改善を図るための基礎資料としてポートフォリオをどのように活用すべきか理解されていないなどの問題がある。そして、財政的支援、設備の整備、人的資源の配置等の不足は多くの大学に共通している。

1.2　学修ポートフォリオに関する基本的な考え方

［学修者中心の学修ポートフォリオ］

学修ポートフォリオは、学生自身が学びのプロセスや成果を示す資料・コンテンツ等を継続的に蓄積したものである。学生は、継続的かつ定期的に学びを振り返ることを通じて学修の到達度を確認し、取り組むべき課題を発見することができる。また、教員から個別指導を受けることで適切な学修支援を獲得して学びを深化させ、さまざまな知識と技能を自主的に修得することができる。このような学修の体験を繰り返すことで、生涯に亘り身につけるべきキャリア「能力」を形成することができる。

［教員・大学からみた学修ポートフォリオ］

学修ポートフォリオを活用することで、学びと教育のプロセスを「見える化」し、そのプロセスを学生と共有することができ、学生の学修行動を把握できる。教員は、学修行動の記録を活用して授業の点検・評価を行うことで、課題を発見するツールとして活用できる。また、大学では教育プログラムの効果を明確化し、教学マネジメントを点検する IR（大学機関調査）ツールとして多面的に活用できる。

以上のことから、学修ポートフォリオを継続的に活用することを通じて、学生の学修と大学の教育をマッチングすることにより､学士課程教育で求める方向性を確認する｢羅針盤」としての役割が期待されている。

1.3　提言

学修ポートフォリオの導入に当たり留意すべき点としては、学生一人ひとりの学修内容及び学修達成状況を常時把握し、特に達成が思わしくない学生には大学として卒業するまで適切な学修支援が得られるよう、何らかの個別指導を行う仕組みを整備しておくことで学生が安心して学びに向き合えるようにすることが、最も重要なことである。

そのためには、各大学でポートフォリオ導入の目的及び意義を明確化するとともに、学生・教職員への共通理解の徹底が不可欠で、当面、以下に掲げるような課題及び対応の検討が必要となろう。

① 学修ポートフォリオの運用に当たっては、教育課程や各科目において学修ポートフォリオの位置づけや活用方法を明確にするとともに、学生に利用のメリットを明確に提示する必要がある。

② 学生に継続的に利用させる仕掛けとして、各科目のシラバスに学修ポートフォリオの活用方法を明記し、評価項目の一つに学修ポートフォリオの活用状況を加えるなどの方策が考えられる。

③ 学生に積極的に利用させるためには、学修記録の内容や振り返りに対する教員のコメントなどのフィードバックが不可欠である。コメントの具体的な方法やノウハウについては、ＦＤの課題としてとりあげる必要がある。

④ 学修ポートフォリオの導入及び利活用には、学長のリーダーシップのもと全学的かつ組織的に取り組むことが求められる。また、大学組織として学生を支援するためには一人ひとりの学生の学修に寄り添う覚悟が求められていることから、教員の意識変革を促す努力が必要とされる。

⑤ 学修ポートフォリオの実現・維持には、人的資源の配置、施設設備、財政的支援等の適正化に関して理事会を中心とした組織での共通認識と意思決定が必要である。

２．学修ポートフォリオ導入に向けた共通理解の促進策

2.1　シラバスを通じて学生に呼びかけるための工夫

ポートフォリオを導入している大学の課題として、導入１年目は比較的多くの学生が書き込みに参加するが２年目以降は減少傾向にある。その要因として、一つは、大学のオリエンテーションなどの機会を通じてポートフォリオの意義・役割、重要性について説明をしているが、学生はもとより教員、職員にも十分理解が得られていない。二つは、授業の中でポートフォリオを用いて最良の教育を提供していくという教員側の真剣な気持ちが伝わっていない。三つは、学生がポートフォリオに参加しても教員側から的確なコメントなどのフィードバックが十分でないことがあげられている。

課題解決のためには、学士力を獲得する上で教員と学生の双方が信頼関係を醸成し、学生一人ひとりの学びに教員が的確に対応できるようにする仕組みが必要とされる。

学修行動を的確に把握するには、事前・事後学修の状況、教室授業の状況、学修上での不安や悩み､授業目標で掲げる達成度を真実に照らして自己点検･評価させることが、学士力を達成する上で大変重要であることをシラバスで気づかせることが必要である。その際、学生に自己点検・評価を通じて学びの振り返りの重要性を理解させ、習慣づけられるようにすることが肝要である。

それを効果的に行う手段として、振り返りを記録・蓄積して自己の判断や行動の適切性を分析するポートフォリオの活用が有効である。また、教員には、学力不足の学生には学びの不安の解消、優れた学生には発展的な学修の提供など学生一人ひとりに応じた学びを支援する手段としてポートフォリオの活用が不可欠となる。

教員側の真剣な気持ちを伝える方法として、例えばシラバスの中で振り返りの重要性を文章表現しただけではインパクトが弱いことから、映像や音声により手短に臨場感ある形のマルチメディアで公開することが効果的と考える。学生目線に訴えられるようにすることが肝要であり、実際にポートフォリオに参加した学生の意見を踏まえて呼びかける方法や学生の声を直接紹介するなどの工夫が考えられる。

※　以下に映像や音声を用いた語りかけについて、教員として配慮すべき点を掲げるので参考にしていただきたい。

- 　授業科目でどのような能力が身に付けられるのか、学士力の中での位置づけを明確にする。
- 　毎週の授業でどのような能力､知識を身につけることができたのかを自己点検・評価することが大切であり、振り返ることで次の週の学びに向けて、学生はどのような学びの準備をしなければいけないのか気付くことができることを説明する。
- 　振り返りは、社会人になって生涯にわたって様々な課題に向き合うときに、どのように判断し、どのように行動したらよいのか、考える手助けになるとともに人格形成にもつながることを説明する。
- 　心の中に刻み込んで問題意識を持ち続けられるようにすることが大切であるが、そのために習慣づける手段として振り返りを記録することを通じて、学生自身が「できるようになったこと」と「できなかったこと」､授業や事前・事後学修での取り組み姿勢などについて気付くことができることを説明する。

※　次に学生からの語りかけの事例を掲げるので参考にしていただきたい。

【卒業生からの声】

大学院を卒業して社会人となり５年目を迎えようとしていますが、会社でも年間の行動目標などを自ら設定し、上司に評価を受けるという大学の「学年末の達成度自己評価」と同じような機会があります。

目標の設定や過去の反省は面倒で、意味のないものに感じるかもしれません。しかし、今の課題に対して目的や目標を明確にせず、受け身の姿勢で取り組んでは、面白みもなく自分自身の成長もありません。また、反省をしなければ同じ失敗を繰り返したりして、意欲も薄れてしまいます。

「一週間の行動履歴」や「学年末の達成度自己評価」は、自身を振り返り目的を持って主体的に物事に取り組むためのきっかけとなります。自ら進んで取り組むことで、新しい発見や楽しみが増えてくると思います。

【２年生からの声】

１週間の行動履歴や達成度評価ポートフォリオの作成を通して、日々の生活の見直しや改善、1年間の自己の成長を知ることができた。1週間の行動履歴では、１週間に行った学習や部活動、アルバイトなどに費やした時間を入力した。そのことにより、日々の時間の使い方や学習や部活動、娯楽の時間のバランスなどを振り返ることができた。またそれらを考慮し次週の目標を設定することで、より有意義な１週間を送ることにつなげられた。達成度評価ポートフォリオでは、各科目の学生が達成すべき行動目標に対する反省を行うことができた。複数ある行動目標のそれぞれの観点からその科目を振り返ることで、達成できた点やできなかった点、その理由や改善点を明確にすることができた。また、それによって次学期の学習目標について考えることができた。これらのことから、１週間の行動履歴や達成度評価ポートフォリオの作成は、自身を見直し今度の目標、課題を考え学生生活をより充実させていくことにつながった。

2.2 学士力の修得状況を自己点検できるようにするためのワークシートの構成とその例示

学生の学修行動をモニタリングしていくためのツールとして、「授業の進み具合を点検するワークシート」と「学修達成度を確認するワークシート」が必要となる。本来は全ての授業科目でワークシートの活用が望まれるが、学修ポートフォリオを導入する初期段階では学生や教職員の負荷を考慮し、当面は必修科目に限定することが得策と考えられる。

「授業の進み具合を点検するワークシート」では、授業の進捗状況に応じて学びの動向を仔細に点検できるように授業期間中に複数回行う必要がある。その際、基礎学力を測る汎用的な能力の修得状況について学修期間の前半に行うことが望まれる。修得状況に問題がある場合には改めて特別の学修支援プログラムを設ける必要がある。

「学修達成度を確認するワークシート」では、授業期間終了後に到達目標が達成できたか否か、単位を取得した場合でも到達度の能力を活用できる自信があるか否かを内心に照らして表現させることで、大学として質保証に向けた学修支援を徹底することが望まれる。

以下にワークシートに記載することが不可欠な要素について網羅的に掲載した。要素の組み合せ及び追加などを行い授業の形態や目的に応じたワークシートを検討・作成されることを希望する。

「授業の進み具合を点検するワークシート」の要素

- **学修時間の把握**
  例えば、個人・チームでの事前・事後の学修時間を記録させる。
- **知識・技能・態度の確認・定着**
  例えば、教員側から知識・技能・態度の範囲を指定し、授業で学んだことや気付きなど修得した内容を自分の言葉で記述させる方法、技能・態度の Can Do リストで達成度を点検させる方法などで記録させる。
- **知識・技能の活用と知識の創造**
  例えば、提示した課題についてレポートを提出させた上で、獲得した知識・技能を用いて社会や組織の課題との関連付け及び応用の可能性について考察ができるか否か、知識の統合化による考察ができるか否かを記述させる。
- **自主性及び主体性の確認**
  例えば、事前・事後学修を行っているか記述させることで自主性の有無を確認させるとともに、次の学修行動に向けた準備を記述させるなど主体的な行動の有無を自己点検させる。また、チームで学修している場合には、考察プロセスの中で学生個人がどのような役割を果していたか、相互に協力して考察することができたか否か、多様な意見を取り入れて考察することができたか否か、チーム内外での相互評価などを記述させる。
- **ワークシートに対するフィードバック**
  例えば、上級学年生などによるファシリテータからのコメント、担当教員からのコメント欄を設けておくことが必要である。

「学修達成度を確認するワークシート」の要素

- **授業の到達目標に対する達成状況**
  例えば、単位を取得した場合でも学修到達目標の能力を卒業までの学修段階で活用できる自信があるか否か、卒業した後で活用できる自信があるか否かを正直に記述させる。
- **主体的な学修行動の確認・定着**
  例えば、失敗・成功した学びの経験を記述させた上で、学士力の獲得に向けた次の学びのデザインを考えさせ、行動目標を記述させる。
- **ワークシートに対するフィードバック**
  例えば、担当教員からのコメント欄を設けておくことが必要である。

ワークシートのイメージを理解いただくために、実際に使用されている「事前に課題本を読ませるワークシート」、「教養教育のワークシート」、「理系のワークシート」、「医療系のワークシート」の事例を８頁以降に掲げたので参照いただきたい。

2.3　学士力の獲得に不安を抱える学生を対象とした学修支援方法の留意点

学修ポートフォリオで学生に学修の達成状況を真実に照らして記述することを求めているが、達成が思わしくない学生には大学として何らかの個別指導を行う仕組みを整備し、学生が安心して学びに向き合えるように学修支援の仕組みを構築しておくことが必要不可欠である。

学生一人ひとりの不安や悩みを把握し、必要に応じて面接を行うなど、組織的な対応をめざして情報共有を促進する必要がある。それには教員同士による連携体制の構築、ファシリテータによる助言などの仕組み、教職員一体となって取り組むための全学的なプランの策定などの整備が必要となる。

学生一人ひとりの学びに応じた支援として、「基礎学力不足」、「知識理解の不足」、「人間関係の悩み」、「各種障害」など、学生が抱える不安や悩みのタイプに応じた対応策を大学として備えていることが前提となる。例えば次のようなことが考えられる。

- **基礎学力が不足する学生**には、例えば、大学として補習授業を提供し、授業目標が達成できるようファシリテータと担当教員との連携によるきめ細かな助言・指導が必要となる。
- **知識・理解が不足する学生**には、例えば、学内ネット上での授業録画による学び直し、ｅラーニングによる個人学修の徹底、ファシリテータの助言などの仕組みが必要となる。
- **友人がいないなど人間関係に悩みを持つ学生**には、例えば、上級学年生から学内ネット上で励ましや学修相談を行い、その対応状況を大学が特定する教員・職員・ファシリテータで共有し、連携して対応策を考え、孤立させないように支援する仕組みが必要となる。
- **発達障害などの学生**には、例えば、大学としてや心理カウンセラーなどの専門家によるアドバイスによる指導を行い、学生に応じた支援方法を提供することが必要となる。なお、障害の程度によりチーム学修が困難な学生には、学内ネット上での学びの仕組みを通じてチーム学修に参加できるようにする必要がある。

以上の学修支援を効果的に進めるためには、教員・職員としての職務規範を充実し、全学あげて学生一人ひとりが安心して学修を受けられるよう、FD・SD の研修を徹底する必要がある。

2.4　振り返りに対する教員のコメントをフィードバックする際の留意点

学修ポートフォリオが持続的に使用されない大きな要因の一つとして、学修記録の内容や振り返りに対して教員が速やかにコメントなどのフィードバックをしていないことが指摘されている。フィードバックが行われていない状況として、コメントの表現をどのように考えるべきか、速やかにフィードバックすべきか否かタイミングなどの問題がある。このような現状認識に立ち、コメントの内容について、学修者一人ひとりへの対応と学修者全員に共通する対応、授業期間中に対応できること授業期間終了後の対応、大学全体で対応すべきことなどを踏まえて検討する必要がある。

以下にコメントの表現・タイミングを想定した対応の留意点について整理したので参考にしていただきたい。

- **授業期間中でのコメントの仕方**としては、授業で工夫できる内容であれば学修者全員にネットで周知し、教員と学生との信頼関係をできるだけ早く築くようにすることが重要である。学修者一人ひとりが抱える不安や悩みへのコメントは、例えば基礎学力が不足する学生、知識・理解が不足する学生、友人がいないなど人間関係に悩みを持つ学生、発達障害などの学生に応じて担当教員として助言できるか否かを判断した上で、対処方法を案内することが望まれる。そのようなケースタディに応じた対処の仕方については、教職員一体となって FD・SD などで検討していくことが必要であろう。
- **授業期間終了後でのコメントの仕方**としては、他の授業関連科目との調整、授業方法・シラバスの再構築、対話学修・体験学修・ICT を駆使した学修など授業環境の整備、ファシリテータによるきめの細かい学修支援の整備などの課題が想定されるので、学生には問題の重要性を認識していることについてフィードバッ

クする程度に留めておくことが適切と考えられる。

・　**大学全体でのコメントの仕方**としては、すぐにコメントを返すことができないので、問題の重要性に応じて大学としての課題となることを教員個人の気持ちとしてフィードバックすることが望まれる。しかし、財政・教育政策・組織の再編・構築に絡む時間のかかる問題への対応は、組織的な課題であるとのコメントに留めておくことが適切ではないであろうか。

以上のコメントのフィードバックに際して教員が配慮すべきこととして、学修ポートフォリオで意見を表明した内容が学生の不利益にならないように予めシラバスの中で明示しておくなどの工夫が望まれる。また、ポートフォリオの内容が他者から安易に閲覧できないようにするため利用できる範囲や権限について学内で十分に検討し、判断基準を設けておく必要がある。

関連資料１
【事前に課題本を読ませるワークシート】

現代の企業経営入門　予習用紙　【サンプル】

履修番号		氏名	
日付	月　　日	課題範囲	
自信のない言葉・単語			
著者の主張			
著者の主張に関連して、自分に活用できること。			
質問やコメント			
教師・SAコメント欄			

資料提供：長崎大学経済学部教授
西村宣彦　氏

関連資料２
【教養教育のワークシート】

コミュニケーション実践学Ⅱ　（対人世界の心理学）

科目の紹介

基本情報	平成 25 年度・教養教育・前期		曜日・校時		
モジュール名	コミュニケーション実践学		科目名	対人世界の心理学	
教員名（所属）	山地弘起（大学教育機能開発センター）			教室	
選択者数	３０名	2 年生の所属学部	教育学部	経済学部	
再履修数	０名		（１７名）	（１３名）	

授業のねらい：(学生向けに)

皆さんは、例外なく、他の人間たちのなかで生まれ、育ち、今に至っている筈です。周りを見渡せば、親密な関係（家族など）もあれば、生活の一部での関係（クラスメイトなど）やごくわずかな一方的な関係（テレビを通してなど）もあるでしょう。上下関係や年齢に応じた立場や役割に気づくこともあるでしょう。さらには、故人や先祖とのつながりを感じることもあるかもしれません。好き嫌いや相性といったもので、付き合い方を変えていることもあるかもしれません。我々は皆、そうした様々な質に彩られた関係の網目のなかで日々を過ごしています。と同時に、各自の認知機能や性格傾向などにおいて、その多くの部分は、これまでの対人関係の所産といえます。発達過程における対人関係の重要性を、強調しすぎることはできません。そして今後、さまざまな場で相互にケアし合える関係を構築していくことは、次世代への重要な責任の一つといえるでしょう。そこで本科目では、①自分の対人世界のありようを意識化する、②対人関係スタイルの成り立ちを吟味する、③互いの成長を支え合う関係構築の方法を模索する、の３つのねらいを設定します。

アクティブラーニングに向けて工夫した点：

学部および性別混成のホームグループを構成した。内容面ではまず、自己理解の体験学習を含めながら、関連した代表的な考え方を検討した。その後、教科書を授業外の時間で学習し、いずれか１つのテーマでジグソー学習のリーダーを務め、グループ・プレゼンテーションを行うことを求めた。学習内容を個人的記憶と関連付け、消化を促すためにメモリーワークも含めた。

授業外学習を促進するために、資料要約やライティングなどの基本技能の学習にも時間をとった。

授業ワークシート（平成 25 年度「対人世界の心理学」）　記入月日：＿＿月＿＿日

学生番号：＿＿＿＿＿＿＿＿　氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿学部：＿＿＿＿＿

Ⅰ 今回の授業を通して、とくに学んだこと・考えたことを*具体的に*記入して下さい。

Ⅱ 今回のグループ活動に関して、以下の各項目に自分がどの程度あてはまるか、○印で囲んで下さい。

	あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
1. 自分の伝えたいことを十分述べることができた・・・・	1	2	3	4	5
2. 他の人の考えや意見を十分聴くことができた・・・・・	1	2	3	4	5
3. 他の人は自分の言ったことを十分聴いてくれた・・・・	1	2	3	4	5
4. グループに十分参加することができた・・・・・・・・	1	2	3	4	5
5. グループに十分貢献することができた・・・・・・・・	1	2	3	4	5

Ⅲ グループ活動のなかで、自分のコミュニケーションの傾向について気づいたことがあれば記入して下さい。

Ⅳ グループ活動のなかで、他のメンバーの貢献について何か気づいたことがあれば記入して下さい。

Ⅴ その他、今回のグループ活動から学んだこと・気づいたことがあれば記入して下さい。

資料提供：長崎大学教育イノベーションセンター教授
山地弘起 氏

関連資料３
【理系のワークシート】

理系／授業ワークシート（講義編）

１．前回の授業内容について復習してきましたか。
a. はい(　　分)　　b. いいえ

２．今日の授業で習得した内容（現象、式、手法等）は何ですか。

解答例：光の性質（波動性と粒子性）

３．今日の授業で理解できなかった内容（現象、式、導出過程等）は何ですか。

解答例：マクスウェル方程式の導出過程

４．３の内容は自力で理解できると思いますか。それは、どのくらいの時間が必要だと思いますか。
a. はい　　b. いいえ
復習時間(　　)分

５．理解するための努力は何をすれば良いと思いますか。
a. 友達と勉強する　b. 演習問題を解く　c. 過去の分野（数学含む）を復習する
d. 関連知識を調査する　e. 先輩に聞く　f. 先生に聞く
g. どこから手をつけていいかわからない　h. その他（　　）

６．今日学んだ内容はどのような分野に関連していると思いますか。また、どのような分野に応用できると思いますか（調査して書いてもよい）。

解答例：××方程式は望遠レンズ設計の際に使用できると思う。

理系／授業ワークシート（実験編）

１．実験テキストを読んできましたか。
a.はい　　b.いいえ

２．実験の目的は理解できましたか。
a.はい　　b.いいえ

３．実験の原理は理解できましたか。
a.はい　　b.いいえ

４．班で協力できましたか。また、あなたは班の中でどのように行動し協力できましたか。具体的に書きなさい。
a.はい　　b.いいえ

５．実験中の問題点を挙げ、それが起こった原因とどう改善したかを述べてください。

６．講義で学ぶだけでなく、実験を通して理解が深まった事や感動した結果は何ですか。

７．今回の実験を通して次回の実験で活かしていきたい点は何ですか。

資料提供：日本女子大学理学部教授
小川賀代 氏

関連資料４
【医療系のワークシート】

ポートフォリオの活用について

１．ポートフォリオの教育的意義について

1）授業前に目標を設定し、授業後にふりかえりを行う習慣をつけさせることで、自己評価と能動学修ができる学生を育成する。
2）「超高齢社会に対応できる歯科医師」になるという目的に対して、Step1（3年生）、Step2(4年生)、Step3（5年生）で3年間にわたり学修を行うが、最終的な目標に向かって、学んだ事を常に活かしていくためにポートフォリオを活用する。
3）特に臨床において学ぶ際に、態度や技能も含む到達度の自己評価能力を養成する。

２．ポートフォリオの様式について

1）「目標書きだし」「ふりかえり」「成長報告書」に関しては、Step1（3年生）、Step2(4年生)、Step3（5年生）同じ用紙（ファイル）を用いて、容易に過去を振り返れるようにする。
2）授業に際しては「授業報告書」を同じテーマの一連の授業が終わった際に、学んだ事の要点を書く。
3）臨床実習に関しては、症例の概要、情報収集に際して留意したこと、実施した診療について、実施の際に留意したことを「臨床実習報告書」に 印象に残った経験を「SEA（有意事象分析）ふりかえりシート」に記入する。

３．ポートフォリオの運用について

1）電子ポートフォリオを活用するかあるいはワードファイルを他の方法で提出する。

コース：口腔医学とチーム医療

目標書き出しシート

Step1（3年生）　　番号　　氏名

この授業における「自分の目標」（先ずはどんどん書き出してください）
「超高齢社会で活躍する歯科医師になるために何を学ぶべきか？」
①　できるようになりたいこと　②知りたいことなど
今回の授業で達成したい目標を「具体的」に挙げていきましょう。

Step2（4年生）

Step1の授業で学んだ内容も振り返って、この授業における「自分の目標」を書き出してください。「超高齢社会で活躍する歯科医師になるためにさらに何を学ぶべきか？」
今回の授業で達成したい目標を「具体的」に挙げていきましょう。

Step3（5年生）

Step1、2の授業で学んだ内容も振り返って、学んだ内容を臨床に応用する際の「自分の目標」を書き出してください。

コース：口腔医学とチーム医療

番号　　氏名

ふりかえりシート

Step1（3年生）

1. 教育目標のうち達成できたもの ①あなたは超高齢社会で活躍する歯科医師になる ために、この授業を通じて何を学びましたか？	2. 改善すべきと考えること ①あなたが今後の学修において、改善すべき点はどのような点ですか？
3. 今の気持ち・感情	4. 超高齢社会で活躍する歯科医師になるた めに、今後何を学ぶべきですか？

Step2（4年生）

1. 教育目標のうち達成できたもの ①あなたは超高齢社会で活躍する歯科医師にな るために、この授業を通じて何を学びましたか？	2. 改善すべきと考えること ①あなたが今後の学修において、改善すべき点はどのような点ですか？
3. 今の気持ち・感情	4. 超高齢社会で活躍する歯科医師になるた めに、今後何を学ぶべきですか？

Step3（5年生）

1. 教育目標のうち達成できたもの ①あなたは超高齢社会で活躍する歯科医師になるために、この授業を通じて何を学びましたか？	2. 改善すべきと考えること ①あなたが今後の学修において、改善すべき点はどのような点ですか？
3. 今の気持ち・感情	4. 超高齢社会で活躍する歯科医師になるた めに、今後何を学ぶべきですか？

コース：口腔医学とチーム医療

成長報告書　　番号　　氏名

Step1（3年生）

成長したことベスト3

1．

2．

3．

ここで得たことを、Step2（4年生）でどう活かしますか？

いつ・どこで・どんな状況で・誰にどのように・・・具 体 的 にイメージして書いてください

教員からのコメント（サ イトからコピーしてください）

印

Step2（4年生）

成長したことベスト3

1．

2．

3．

ここで得たことを、Step3（5年生）でどう活かしますか？

いつ・どこで・どんな状況で・誰にどのように・・・具 体 的 にイメージして書いてください

教員からのコメント（サ イトからコピーしてください）

印

Step3（5年生）

成長したことベスト3

1．

2．

3．

ここで得たことをどう活かしますか？

いつ・どこで・どんな状況で・誰にどのように・・・具 体 的 にイメージして書いてください

教員からのコメント（サ イトからコピーしてください）

印

コース：口腔医学とチーム医療

授業報告書

番号　　氏名

「口腔乾燥症」患者の発症原因、口腔内症状、治療についてどのように理解したか？（WG1）
基礎疾患を有する高齢者に対して、歯科診療を行う際に配慮すべき事は何か？」（WG2）
【　急性期・回復期のチーム医療についてどのように理解したか？（WG3）　】？（WG3）
1.　高齢者の心身の特徴および高齢者に多い疾患と死因 についてどのように理解したか（WG4） 2.　基礎疾患を持つ高齢者の診療に際し地域連携医療を 担う歯科医師の役割についてどのように理解したか（WG4）

コース：口腔医学とチーム医療

臨床実習報告書

番号　　氏名

1．症例の概要（年齢、性別、主訴、基礎疾患、服薬状況・・・・・）
2．情報の収集に際して留意したこと
3．実施した診療について
4．診療を実施するに際して留意したこと

資料提供：昭和大学歯学部教授
片岡竜太　氏

３．学修ポートフォリオ情報の活用対策と教職員の関わり方

中央教育審議会の「質的転換答申」で指摘されているように、新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて、大学３ポリシーの一貫性とそれに基づくアクティブ・ラーニングを中心とする学修方法の改革、教職員の職務能力の開発が求められている。なかでも出口としての教育の質保証について社会から高い期待が寄せられており、これに応えていく大学としての使命が今問われている。とりわけ、一人ひとりの学生に寄り添い、学修行動を把握し、それにもとづく適切な学修支援を通して、学生自らの気づきと成長を促す仕組みが求められている。

その仕組みとして、学生自身が学修の達成状況を点検し、振り返りを通じて自律的に学修する習慣を身につける学修ポートフォリオの導入と、大学がこの情報を踏まえてきめ細かな履修指導や学修支援の実施、教育プログラムの改善に活用することが不可欠となっている。そこで、学修ポートフォリオが教育の質の向上に寄与する重要なツールとして必須となっている。しかし、学修ポートフォリオ自体に対する理解やそれを導入・活用することの重要性が、学生・教職員全体に十分に認識されていないという問題がある。今後の課題は、学修支援方法の工夫や学生と教員の双方向的なコミュニケーションの充実・向上に向けて、教員自身による振り返りを通じて教育方法と学修支援のＰＤＣＡを主体的に展開していくことが要請されている。本報告では、これらに対する一つの指針を提示したものである。

3.1　授業の有効性を点検・評価するための学修ポートフォリオ活用の留意点

学生の学修行動及び授業目標の達成状況を記録した学修ポートフォリオのワークシートは、授業デザイン及び授業マネジメントの振り返りを教員自身で自己点検するための不可欠なエビデンスである。大学は総力をあげて学生一人ひとりに最良の教育を提供していく使命を負っていることから、カリキュラムと授業との整合性を点検・評価し、学士力育成の観点から授業価値を振り返り、授業内容の改善または授業科目の調整に取組むことが求められる。

以下に、授業の自己点検、授業科目の有効性評価に学修ポートフォリオを活用する留意点を掲げる。

（１）授業デザイン及び授業マネジメントの振り返りを自己点検

教員側の視点による授業づくりに限界があることから、学生側の視点を取り入れた授業設計や授業運営､学内外の教員･社会の意見を反映した授業マネジメントが望まれる。以下に授業内容・方法を振り返るための学修ポートフォリオの活用について例示する。

授業設計や授業運営を点検・評価するためには、カリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーをもとに授業で修得する能力が学士力で掲げる到達目標のどの部分に関連付けられているかを体系化し、シラバスの到達目標として明確化されていることが前提となる。

その上で以下のような視点から授業目標の達成状況を振り返ることが必要となろう。

- **教室外における学修時間数と学修行動の把握**
  （個人・チームを含む事前・事後学修の時間数、事前学修としてのビデオ視聴、資料や課題本の読み取り、定義・意味の解釈調べ、フィールドワーク・インタビュー、質問・意見の有無、授業目標の確認、事後の学修計画など）
- **授業の理解度に関する把握**
  （学んだ内容や理解できなかった内容の自己申告、社会や組織課題への関連付けなど）
- **知識・技能・態度に関する能力の把握**
  （授業の到達目標と関連させて知識理解、技能、態度の観点からどのような能力が身に付いたかを Can Do リスト等で検証、例えば、知識の定着、知識の活用、知識の組み合わせ・創造、技能の修得、技能の活用、態度の修得、態度の実践、課題の発見・問題解決への取組みなど、能力発揮に関する自信や不安の記述など）
- **主体性・多様性・協働性確保の把握**
  （アクティブ・ラーニング実施の有無を検証、自ら問題発見・解決に取組む学修行動の確認、チームで多様な意見を取り入れ協働する学修行動の確認、主体性・多様性・協働性修得の有無を確認など）

（２）授業の役割・有効性を評価し、改善策を考察

授業の役割・機能を点検・評価し改善するためには、組織的にカリキュラムと授業との整合性を点検・評価し、学士力育成の観点から授業価値を振り返り、授業内容の改善または授業科目の調整に取組むことが望まれる。学生一人ひとりに最良の教育を提供していくことが大学の使命であることから、教員は常に授業の役割について能動的に捉え、教員間で連携して最適な授業を提供できるようＦＤを通じて授業改善していく意識の変革が求められる。

以上のようなことを前提に、学修ポートフォリオと授業評価アンケートを組み合わせて学士力の定着状況を総合的に点検するとともに、教員自身による自己点検のティーチング・ポートフォリオとマッチングさせ、授業の貢献度合いの観点から授業科目の価値を振り返ることが望まれる。

例えば、シラバスに掲げた授業目標の達成状況を担当教員が自己点検・評価した上で、関連科目を担当する教員間で学士力との関連付けを確認し、抜本的な改善策を考察する。また、上記のプロセスを経た上で改善が思わしくない場合には、学内組織において授業科目の存置や他科目との統合・調整などの改善が望まれる。その際、点検・評価の精度を高めるため学外教員及び外部有識者と意見交換するなどの取組みも必要となろう。

3.2　授業価値を振り返るためのティーチング・ポートフォリオの導入

（１）ティーチング・ポートフォリオ導入の必要性

未来を背負っていく学生に最良の学びを提供し教育の質を高めていくには、これまでの知識伝達型授業に加えて、学生の主体性を引き出し・伸ばす授業に転換していくことが問われている。自ら問題を発見し、解を見出し実践できる力を育む能動的学修（アクティブ・ラーニング）の組織的な取り組みを行う中で、教員一人ひとりが学士力に向けて授業の役割を確認し、学生からの反応・意見を踏まえて主体的に授業を振り返り改善していくことが望まれる。その手段として、授業の振り返りシートに成果、反省点・改善点を整理するティーチング・ポートフォリオが必要となる。学生に学びの振り返りとして学修ポートフォリオを求めているが、教員においても学生同様に授業の成果に対する振り返りを求め、次の授業に向けてのＰＤＣＡを繰り返す中で授業改善を図る必要がある。しかし、ティーチング・ポートフォリオによる授業の振り返りを組織的に導入している大学は、本協会加盟校の調査によれば平成２６年度時点で全学もしくは一部の学部・学科で４２校約２割、２９年度は６７校約３割と少なく、今後大学として避けて通れない問題として、教員一人ひとりに授業の自己点検・評価を習慣化する取り組みについて理解の促進を行う必要がある。

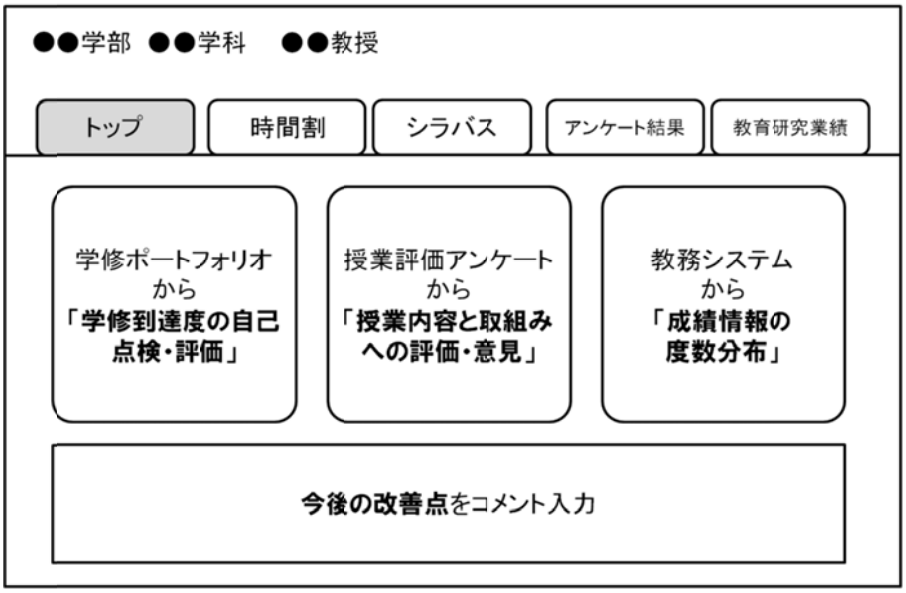
（２）ティーチング・ポートフォリオ導入の課題

現在導入しているティーチング・ポートフォリオの多くは、「教育の責任・責務」、「教育の理念と目的」、「教育の方法」、「成果と評価」、「今後の教育目標」、「具体的なエビデンス」など教員の教育業績の有効性を記録・表現した回顧録のようになっている。本来ティーチング・ポートフォリオは義務付けられるものではなく、教員の主体性にもとづき授業を振り返り、学士力に照らして学生にどのような能力が成果として身についているかを自己点検・評価し、改善に取り組むところに意義がある。

したがって、未来を背負っていく学生に最良の学びを提供できるよう、担当授業科目の役割・価値を明確化することが求められてくる。そのような中で、授業を体系的かつ客観的に点検・評価する仕組みとしてのティーチング・ポートフォリオは、教員自身にとって記録し易いものであり、またそれを利用する側にとって分かり易いものであることが重要である。教員一人ひとりにとって負荷がかからない便宜的な振り返りシステムとして、学修ポートフォリオ・授業アンケート・達成度評価などと連動した簡易のティーチング・ポートフォリオから始める必要がある。

例えば、学修ポートフォリオに掲載されている「学修到達度の自己点検・評価」、授業評価アンケートに掲載されている「授業内容と取組みへの評価・意見」、教務システムに掲載されている「試験結果」をティーチング・ポートフォリオのポータルサイトに一覧できるようにして、今後の改善点をコメントする。また、改善点を次年度の新しいシラバスに反映できるようにシステム上自動的に掲載できるようにしておくことが考えられる。

ティーチング・ポートフォリオのポータルイメージ案



しかしながら、ティーチング・ポートフォリオへの参加を呼びかけても強力なインセンティブがない段階では多くの教員の参加を期待するところまでには至っていない。学士力に向けて最良の授業を提供していくという教員の主体性に依拠することを前提としているため、評価の手段として義務付けることは適切ではない。そこで、参加を促す一つのインセンティブとして、例えば、理事長または学長表彰など教員の教育業績の顕彰制度を設ける中で活用することが考えられる。

3.3 学修ポートフォリオによる教育プログラム有効性の点検

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力が教育プログラムとして機能しているかを点検・評価するには、学修ポートフォリオと教学データを組み合わせた教学ＩＲを整備する中で、学士力の達成状況を総合的に把握することが必要となる。例えば、各授業科目の到達度状況を集計した学修ポートフォリオと成績評価、能動的学修の実施状況、学修成果

の評価、資格取得状況、課外活動状況などのデータを組み合わせて、教育プログラムとしての機能を点検・評価することを通じて科目の統廃合などカリキュラム編成の見直しなどが可能となる。

※ 教学データとは、例えば、成績評価、履修状況、授業科目数、専任・非常勤教員数、教室外学修時間、学修行動記録、能動的学修の実施、e ラーニングの実施、大規模公開授業の実施・利用、学修成果の評価、資格取得、課外活動、進路希望、社会からの評価などが考えられる。

以上を通じて成果が達成されている優れた教育プログラムを抽出し、成功事例による要因・手法などについてＦＤにより理解の共有を図る。なお、成果が十分でない場合には、教職員及び学生参加型のＦＤで原因、課題、対策を検討することが肝要である。

3.4 学修ポートフォリオによる学生の負荷軽減のための教学マネジメント対策

アクティブ・ラーニングを全ての科目で実施すると事前・事後学修の時間確保が厳しくなる。学年当りの授業科目数は、平均で１０科目前後となっており、そのための教室外での学修時間は１日平均で８時間程度が必要となり、教室授業の学修時間を含めると極めて過密になり現実的ではない。授業科目数が欧米の４科目から５科目に比べて３倍程度となっていることが問題で、学生の学修時間を考慮した授業科目の規模を改めて見直す必要がある。教員間及び学部学科組織で授業科目の配置について見直す必要があり、授業科目の調整・統合または新規科目設置などの工夫が望まれる。

見直しに際しては、教員中心の授業科目編成から学位プログラム中心の科目編成に転換することが肝要なことから、学部学科組織の中で科目の役割を再点検し、学士力を身に付けるために真に必要な科目の内容を再設定し、複数教員によるチームティーチングなどの工夫が必要となる。以上の見直しを進めるための対策として例えば次のような点を配慮しておく必要がある。

・アクティブ・ラーニングを実施する科目の体系化を図り、可視化する。
・シラバスでアクティブ・ラーニングの具体的な学修の仕方を明示する。
・教室外での週当たり学修時間数と学生の生活時間数を調査し、学修の負荷を把握する。
・学内サイトに全ての教職員が意見交換できるポータルサイトを構築し、教学マネジメントの工夫について教職協働で対応できるようにする。

3.5 教職員の行動変革を推進する取り組みの留意点

教育の質的転換を全学的に進めていくには、大学の教育活動が人材育成という視点から社会の要請に応えられるものとなっているか、学生が希望する能力を身に付けることができるようになっているか、Web サイト等で教学ＩＲデータを可視化して、役員・教職員がディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの整合性が教育活動の中で認識を共有できるようにする必要がある。

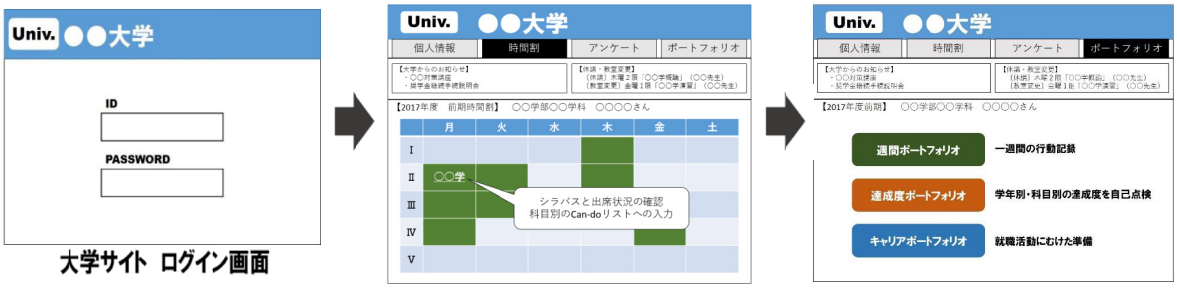
教学ＩＲデータの可視化については、例えば、授業が目指す到達能力の抽出、学生が獲得した学修能力の抽出、成績評価の抽出など、主要なデータをレーダーチャートなどで一覧的にグラフ化し、複数のデータを一丸視できるように工夫する必要がある。このような取り組みをすることで、教員コメントのフィードバック率の向上や授業評価アンケートのスコア向上、学修ポートフォリオに対する学生の反応が見えやすくなるなどの効果が期待される。また、教員及び担当職員が日常業務の一環として意識することなく、教学ＩＲデータを用いて点検できるように習慣化していくことが肝要である。その上で、学士力の実現に向けた議論を学内のＦＤ担当教員及びＳＤ担当職員、ファシリテータの代表学生、企業・地域社会の主要な関係者と連携して、多面的に行える場を設けることが望まれる。

４． ｅポートフォリオシステム構築に伴う留意点

ここでは、ｅポートフォリオシステムの設計・開発ではなく、ｅポートフォリオシステムの構築及び利用に関する留意点、既に導入・利用している大学の事例と運用上の課題について紹介し、システムの導入を検討中の大学や導入後の改善をめざす大学に配慮すべき最小限必要な情報を提供する。

4.1 ｅポートフォリオシステムでとりあげるべき最小限必要な機能

ｅポートフォリオシステムに必要な機能は、大学の導入目的に応じて異なるが、大学に共通すると考えられる「初年次教育用」、「達成度振り返り用」、「キャリア用」の３形態を提案する。



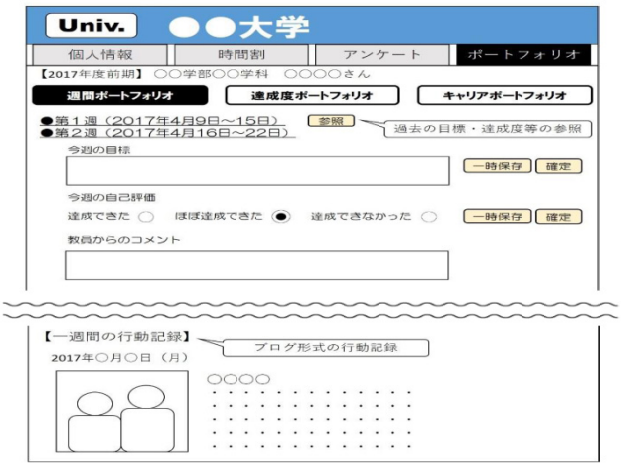
大学サイト ログイン画面　　学生用ポータル画面　　ポートフォリオ画面

（１）初年次教育用のｅポートフォリオ

ここでは、学生が大学生活を計画的に過ごす習慣を身に付けられるようにすることを目的としており、以下のように「週間ポートフォリオ」を構築して、主体的に大学生活を振り返ることができるようにすることが望まれる。

「週間ポートフォリオ」に求められる機能としては、一週間の目標を設定させ、学修・部活動・アルバイトなどの行動記録を文字・写真・動画等で掲載し、目標と行動記録をマッチングして達成度を自己点検・評価できるようにする。その上で、ポートフォリオ上で教員からのフィードバックが受けられるようにする。なお、「週間ポートフォリオ」を使用させる期間は、最短で初年次の前期とし、それ以降は「科目達成度振り返り用」につなげていくことが必要である。

また、一週間の行動記録のデータは、就職での自己 PR に学生生活を振り返る拠り所として活用できるよう、「キャリア用」の ｅ ポートフォリオに自動転送する仕組みを構築しておくことが必要となる。

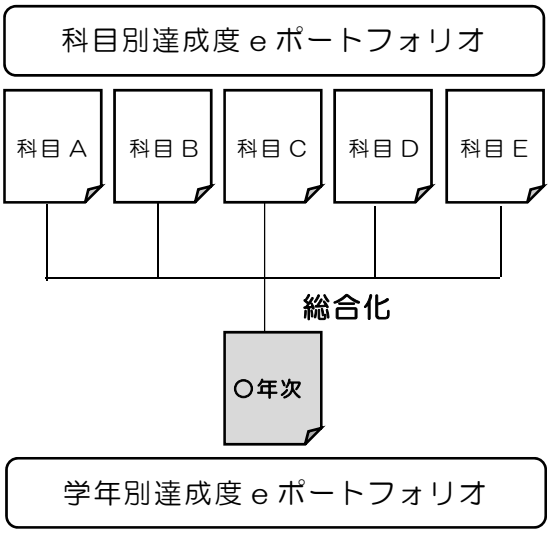


週間ポートフォリオの画面

（２）達成度振り返り用の e ポートフォリオ

ここでは、学年ごとの学修目標を設定させ、学修計画の進捗状況を振り返る中で次年度の学修計画を立てさせる「学年別達成度 e ポートフォリオ」と、授業科目ごとの学修達成度を振り返させて、次の授業科目に向けて学修計画が立てられるようにする「科目別達成度 e ポートフォリオ」を構築して主体的に学修行動の改善が図れるようにする。

達成度ポートフォリオの画面



達成度ポートフォリオの流れ

① 「科目別達成度 e ポートフォリオ」

ここでは、授業シラバスに掲載している到達目標について、学修達成度を自己点検・評価するため、知識・技能・態度の達成状況と教室外での学修状況（学修時間数や学修内容）をワークシートに掲載させる。その上で、教員及び上級学年生のファシリテータが「科目別達成度 e ポートフォリオ」をモニタリングしてコメントを行い、適切な学修行動の支援ができるようにする。学生自身が科目別の到達目標について、具体的に「できたこと、できなかったこと」を自己点検・評価するためのツールとして、また教員が学生の達成度を把握するためのツールとして、ポータル画面に「Can-do リスト」を掲載して利用することが望まれる（下図参照）。なお、Can-do リストの指標や尺度の設定には、ディプロマ・ポリシーとの関係性を重視するとともに、評価方法・基準の明確化が必要である。このことから、Can-do リストはディプロマ・ポリシーを測定する上で重点的な主要・必修科目に限定して実施することが望ましい。

その上で、点検・評価の結果を IR データとして活用できるように自動集計して数値化・可視化することが望まれる。

② 「学年別達成度 e ポートフォリオ」

ここでは、学年ごとに学修する授業科目の全体を通じて、ディプロマ・ポリシーのどの部分を獲得するのか目標を立てさせ、達成状況を振り返る中で卒業までに修得すべき学修プログラムの計画を点検させる。大学の事情に応じて、全ての科目を対象とするのではなく、必修科目、学生全員を対象としたゼミ等で行う。そのために、「科目別達成度ポートフォリオ」による達成度状況を可視化し、不足している能力を補うための工程表を作成させる。

ディプロマ・ポリシー達成度の可視化イメージ

○○学部　ディプロマ・ポリシー

①○○を通して、○○することができる。
②△△に対応して、○○することができる。
③□□し、○○することができる。
④○○に向かって、○○することができる。
⑤△△を通して、○○することができる。

○○学部　カリキュラム・マップ

科目名	科目の到達目標	ディプロマ・ポリシーとの対応 ◎：DP達成のために特に重要 ○：DP達成のために重要 △：DP達成のために望ましい				
		①	②	③	④	⑤
○○学演習	1．○○を実施することができる。	◎				
	2．●●を作成することができる。		○		△	
	3．△△について説明することができる。		○			

シラバス

○○学演習
担当者：○○○○教授

科目の到達目標
1．○○を実施することができる。
2．●●を作成することができる。
3．△△について説明することができる。

科目別ワークシート

授業ワークシート　○○学演習　記入月日：____月____日
学生番号：_____　氏名：_____　学部：_____

Ⅰ 今回の授業を通して、とくに学んだこと・考えたことを具体的に記入して下さい。

Ⅱ 今回のグループ活動に関して、以下の各項目に自分がどの程度あてはまるか、○印で囲んで下さい。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	やや あてはまる	あてはまる
1. 自分の伝えたいことを十分述べることができた・・・・	1	2	3	4	5
2. 他の人の考え や意見を十分聴くことができた・・・・・	1	2	3	4	5
3. 他の人は自分の言ったことを十分聴いてくれた・・・・	1	2	3	4	5
4. グループに十分参加することができた・・・・・・・・	1	2	3	4	5
5. グループに十分貢献することができた・・・・・・・・	1	2	3	4	5

Ⅲ グループ活動のなかで、自分のコミュニケーションの傾向について気づいたことがあれば記入して下さい。

Ⅳ グループ活動のなかで、他のメンバーの貢献について何か気づいたことがあれば記入して下さい。

Ⅴ その他、今回のグループ活動から学んだこと・気づいたことがあれば記入して下さい。

学修状況の確認

＊ワークシートは８～13 ページを参照

Can-doリスト

【科目名】●●学入門
【到達目標】
1．○○を説明することができる。
2．●●を実施することができる。
3．△△を作成することができる。

項　目	到　達　目　標	YES/NO
到達目標1	○○について説明することができる。	
	○○を実施することができる。	
	○○を作成することができる。	
到達目標2	●●について説明することができる。	
	●●を実施することができる。	
	●●を作成することができる。	
到達目標3	△△について説明することができる。	
	△△を実施することができる。	
	△△を作成することができる。	

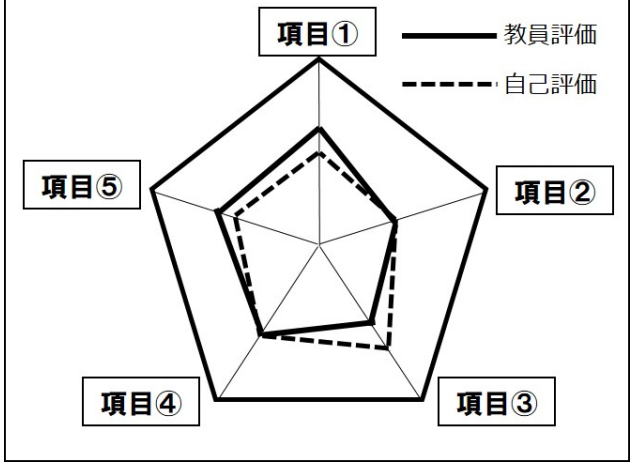
ふりかえり

学生による達成度の確認

数値化

可視化

ディプロマ・ポリシー達成度



数値化　可視化

学籍番号	到達目標1	到達目標2	到達目標3
A17013	4	3	3
A17018	3	5	3
A17036	2	4	1

教員による達成度評価

＊学生はワークシートや Can-do リストをもとに達成度を自己評価し、教員は学生の自己評価を考慮しながら達成度を評価する。

（３）「キャリア用のｅポートフォリオ」

ここでは、将来の夢、自分の強み・弱み、課外活動・ボランティア、就業体験の成果をワークシートに入力して整理させ、卒業後の自分の姿を想像させる中で、学生生活や学修行動が充実できるように、教職員・上級学年生のファシリテータ、企業・団体や地域社会から助言などの支援ができるようにする。

学生に利用促進を働きかけるためには、振り返りの習慣化が社会人の資質向上に不可欠となることの重要性を卒業生から呼びかけるなどの工夫が考えられる。もう一つの方法としては、ワークシートの提出をポイント化したり、成績の一部に含めたりするなどの工夫も考えられる。

キャリアデザイン・シート

これまでの自分
①現在の自分の長所はどのような点にあると思いますか。在学中の具体的なエピソードも記入してください。
②現在の自分の短所はどのような点にあると思いますか。在学中の具体的なエピソードも記入してください。
卒業後の自分
卒業後、どんな職種・職業につきたいですか。
現在の自分
①「卒業後の自分」に近づくためには、どんな力が必要だと思いますか。
②①の力を身につけるために、いまどんな努力をしていますか。
③いままでに身につけた知識やスキルを、「卒業後の自分」にどのように活かしますか。

コメント

※コメント欄には、教職員や上級生等からのコメントが考えられる。

【理系大学のキャリアデザイン用ポートフォリオの例】

1 年生用

自分史

クラス名列:9EY9－999　氏名:工大 デモ学生

1)高校時代・中学校時代・小学校時代を振り返り、以下の学習分野についてその当時の好き嫌い、得意不得意を分析してください(高校時代については、その理由も記述してください)。	登録・参照
2)①高校時代・中学校時代・小学校時代を振り返り、学校の授業以外で得意だったことは何でしたか。	登録・参照
2)②なぜ、得意だったと考えますか。	登録・参照
3)①将来、何になりたいと思っていましたか。夢は何でしたか。	登録・参照
3)②そのなりたいと思っていたことや夢を実現するためにどのような努力をしていましたか。	登録・参照
4)周囲の人びとと接するなかで、何か学んだことはありますか。	登録・参照
5)感動したことといって思いつくことは何ですか。	登録・参照
6)現在の自分の長所はどのような点にあると思いますか。これまでの具体的なエピソードを添えて記入してください。	登録・参照
7)現在の自分の短所はどのような点にあると思いますか。これまでの具体的なエピソードを添えて記入してください。	登録・参照
キャリアデザインシート　自分史	全項目参照

将来像

クラス名列:9EY9－999　氏名:工大 デモ学生

1)①10年後どんな生活をしていたいと思いますか。	登録・参照
1)②そのためにはどのような努力が必要ですか。	登録・参照
2)①働く目的とは、どんなものだと思いますか。(箇条書きでできるだけ沢山あげてください)	登録・参照
2)②そのなかで、最もあなたが重視するものはどれですか。 またその理由は何ですか。	登録・参照
3)①現在興味のある職種・職業は何ですか。	登録・参照
3)②なぜ、その職種・職業に興味があるのですか。	登録・参照
3)③興味のある職種・職業にはどのような能力が必要になると考えますか。	登録・参照
キャリアデザインシート　将来像	全項目参照

在学中

クラス名列:9EY9－999　氏名:工大 デモ学生

1)【将来像】の3)③で答えた興味ある職種・職業に必要な能力を得るためには、在学中に何をすることがよいと考えますか。理由を含めて具体的に述べてください。	登録・参照
2)これからの学生生活に、どのような心構えで臨みますか。	登録・参照
キャリアデザインシート　在学中	全項目参照

キャリアデザイン・レポート

クラス名列:9EY9－999　氏名:工大 デモ学生

★キャリアデザイン・レポート① 「卒業後の私」「社会人としての私」	登録・参照
★キャリアデザイン・レポート② 「世の中の出来事、時事問題など」	登録・参照
★キャリアデザイン・レポート③ 「所属学科の領域に関する研究・社会問題・職業」	登録・参照
キャリアデザインシート　キャリアデザイン・レポート	全項目参照

2 ・ 3 年生用

キャリアデザインレポート

クラス名列:9EY9－999　氏名:工大 デモ学生

設問1.「政治、経済、社会、産業・技術」の領域から一つ選び、これから10年後の世界や日本の情勢について、どのように変化しているかを予想し、1000字以上で具体的に記述せよ。	登録・参照
設問2. 設問1の回答に関連する重要キーワード(3つ以上)をあげ、その内容をそれぞれ30文字程度で説明せよ。	登録・参照
設問3. 設問1，2に対する回答を調査した参考文献を記述せよ。(表記方法は「修学基礎2012　pp.131～132」を参考にせよ。)	登録・参照
設問4. 10年後活躍するためにはどのような能力や知識が必要になるかを予想し、その理由とともに、600字以上で具体的に記述せよ。	登録・参照
設問5. 設問4の能力・知識をどのようにして身に付けるかを、600字以上で具体的に記述せよ。	登録・参照
キャリアデザインシート　キャリアデザインレポート	全項目参照

私の4画面

クラス名列:9EY9－999　氏名:工大 デモ学生

設問1. 金沢工業大学に入学して以来、これまでに修得してきた知識や技能について以下の(1)～(3)を整理した上で、自分の強み、弱みおよびこれから自分の身の回りで起こると予想される機会と脅威について明らかにし、自分の「現状の姿」を500文字程度で記述せよ。 (1)KIT-IDEALS達成評価表 (2)専門分野学習教育目標達成度評価表 (3)1年次、2年次キャリアデザインポートフォリオ	登録・参照
設問2. 10年後の自分の「ありたい姿」について300文字程度で記述せよ。なお、以下の(1)～(2)を文中に必ず記載すること。 (1)どんな組織に所属し、どんな人達(ステークホルダー)に囲まれていたいか。 (2)上記の自分を取り囲む人達にどのような貢献、価値提供をしていたいか。	登録・参照
設問3. 設問1の「現状の姿」と設問2の10年後の「ありたい姿」のギャップを乗り越えるために、今後、何時までに(達成期限)、何を達成するか(目標)を明らかにし、自分の「なりたい姿」を記述せよ。なお、達成期限は以下の3つの段階に分けよ。また、目標は、例えば、100%、90点、上位3位以内などのような目標値として、できるだけ定量的な表現になるよう努力すること。 また、(4)には、「なりたい姿」の手本となる人物がいれば記述せよ。	登録・参照
設問4. 設問3の「なりたい姿」を実現するための「実践する姿」を以下の要領で記述せよ。	登録・参照
キャリアデザインシート　私の4画面	全項目参照

資料提供：平成 27 年度金沢工業大学使用

4.2　e ポートフォリオシステムに求められる利便性

e ポートフォリオの構築で最も重視しなければならない要素は、学生が日常生活の一部として興味を持って参加できるように、モバイル端末による利便性を考慮する必要がある。また、教員の負担を軽減するために、パソコン上で手軽に操作ができるような仕組みが必要である。

（１）モバイルやパソコンでの利便性

① モバイル端末の利便性としては、スマートフォンやタブレットでも入力・蓄積・閲覧ができるように、大きな文字、シンプルなレイアウト、指で操作可能なインターフェイス、画面幅の制限などスマートフォンに最適化した画面設計が必要となる。

② パソコン上で教員の負担を軽減するためには、ポータルサイトに一覧できるようにして、閲覧・書き込み、フィードバック、シラバスへの連動などワンストップの仕組みが求められる。

③ e ポートフォリオシステムの利用にあたっては、ID・パスワードを何回も入力するなどログインに手間がかかるため、シングルサインオンや入り口のポータル化を図る必要がある。

（２）入力負担の軽減

① フィードバックの負担を軽減するために、「褒める、共感する、励ます、ねぎらう」などの教員からのコメントをテンプレートとして準備しておくことが効果的である。

② 学生がワークシートを入力する際には、作成途中の内容を一時保存できる機能、教員及びファシリテータに提出する機能、写真や静止画などが添付できる機能が求められる。

【教員コメントの事例】

項　目	場　面	コメント例
ほめる	課題に対して	「(全体に) よくできていましたね」「特に～の部分がよくできていましたね」
	活動･日常生活に対して	「〇〇プロジェクトは大きな成果がありましたね」 「～をよく頑張っていますね」
共感する	課題の内容に対して	「そうですね。私もそう思います」
	劣等感･疎外感をもつ学生に対して	「そこが～さんのいいところだと思います」
ねぎらう	課題に対して	「〇〇プロジェクト、よく頑張りましたね」
	日常生活に対して	「体調は、もう良くなりましたか？」
励ます	課題や活動等がうまくいかない学生に対して	「次回は、もっと頑張りましょう」 「～さんなら、きっとうまくいくはずです」
促す	さらに高度な課題や活動に挑戦させる	「次は、～に気をつけたら、もっとよくなると思います」 「次は、～の課題に挑戦してみましょう」
質問する	課題に対して	「～の部分について、詳しく説明してもらえますか？」
	日常生活に対して	「最近、睡眠時間をしっかりとっていますか？」

※「励ます・促す・質問する」コメントを付す場合は、「ほめる・共感する・ねぎらう」などのコメントのあとにつなげるのが効果的。（例：「〇〇プロジェクトは大きな成果がありましたね。次は、～に挑戦してみましょう」）

4.3　e ポートフォリオシステム利用上の留意点

e ポートフォリオシステムを利用する上で配慮すべき点として、学生への書き込みを促す仕組み、教員による書き込み状況の把握とフィードバックの工夫が必要である。

（１）書き込みを学生に促すための教職協働支援体制

①　ヘルプデスクの設置

e ポートフォリオ利用に際してのＱ＆Ａについて、教職協働を前提にネット上に掲示板を設け、文字または音声・画像などで説明する。

②　ファシリテータによる呼びかけの体制

社会人基礎力としての自己管理能力の獲得に役立つことの経験を伝えるために、上級学年生を中心にチームを構成し、担当教員と連携して一、二週間に一回程度の割合で学生に振り返りシートの作成をネット上で呼びかけ、学修の習慣化を働きかける。

③　障害学生に対する相談・助言の体制

障害の状況に応じたツール（読み上げソフト、点字キーボードなど）を職員で準備する。また、発達障害などの対応には、特記事項としてシラバスへの授業形式を掲載する他、グループ討議をレポートに替える措置、教員との個別発表、個人発表のビデオ提出など配慮した上で、教員及び職員がカウンセラーと連携し、e ポートフォリオを通じて学修の相談・助言支援体制を構築する必要がある。

（２）学修行動モニタリングのシステム化

①　ワークシート提出状況の確認

ワークシートの提出状況を教員が一覧視できるように、e ポートフォリオのポータル画面をシステム化するとともに、提出期限に応じて未提出の学生へ自動的に督促メールを発信する仕組みが望まれる。

②　行動記録や学修達成度の内容確認

e ポートフォリオ上で学生個人のワークシートを閲覧し、教員及びファシリテータからコメントをフィードバックできるようにする。その際、教員・ファシリテータの負担を軽減する一つの方法として、教員コメントの例示をテンプレートとして組み込んでおくことが有効である。その上で、学年別に面談を行い、ポートフォリオの結果を踏まえて学修達成度の内容を確認し、学修計画の内容を指導・助言することが必要となる。

（３）e ポートフォリオ情報の管理

①　学生との契約

e ポートフォリオに書き込んだ内容の取扱いについて、学修上の相談・助言に利用すること及び教育プログラムの有効性を分析・評価することを主な利用範囲とし、個人情報保護や匿名化、データの利用・保存期間について、大学と学生との間で申し合わせを行っておく必要がある。

②　e ポートフォリオ情報のアクセス権設定

データの取り扱い権限をルール化するため、科目担当の教員・ファシリテータに

ワークシートの閲覧権限を与えることを規程化するとともに、システム上で権限対象者を区分できるよう利用者設定の仕組みを設けておく必要がある。また、ディプロマ・ポリシーが掲げる学修到達目標と科目ｅポートフォリオの学修達成度をマッチングして、教育プログラムの有効性を分析・評価する関係者に対してデータの閲覧権限を設けておく必要がある。

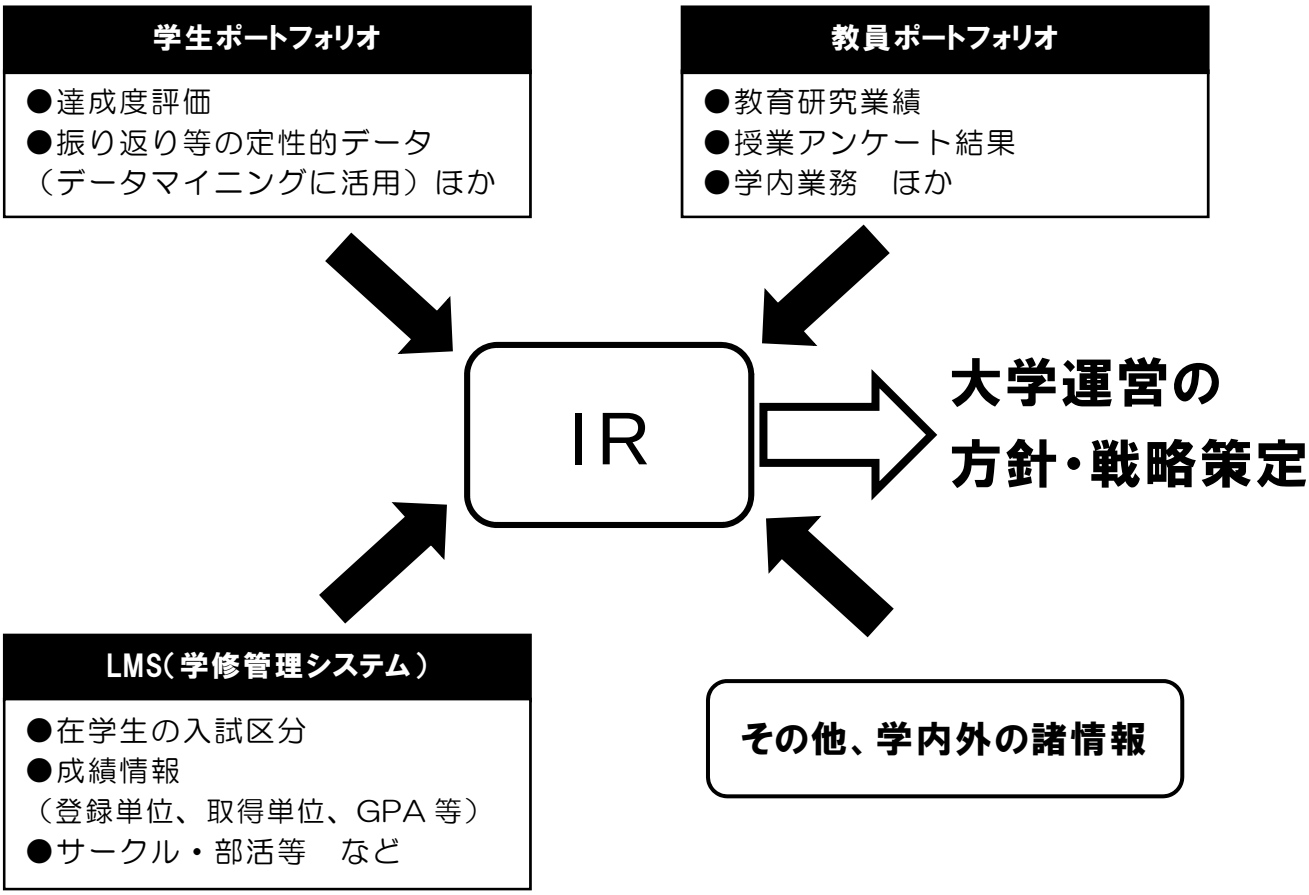
③　ｅポートフォリオ情報の暗号化

学生の個人情報を適切に取り扱うためには、アクセス権設定による学内ルールの規定化やシステム上の仕組みが前提となるが、外部からの不正アクセスや内部漏洩などさまざまインシデントが考えられることから、個人情報を暗号化しておくことが不可欠となる。

4.4　ｅポートフォリオデータのＩＲシステムへの接続

ｅポートフォリオのデータと成績評価、単位取得、授業出席、資格・検定の取得、課外活動、就職活動、面談記録などのデータを組み合わせて、教育プログラムの有効性を点検・評価し、改善策を見出すことができるようにする教学ＩＲシステムとの接続を考慮しておく必要がある。

ｅポートフォリオデータと教学ＩＲシステムの接続については、例えば、学士力の到達目標と学修達成度・成績評価などの主要なデータを相関させ、レーダーチャートやヒストグラム・散布図などで可視化することにより、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性を多面的に点検・評価できるようにする。



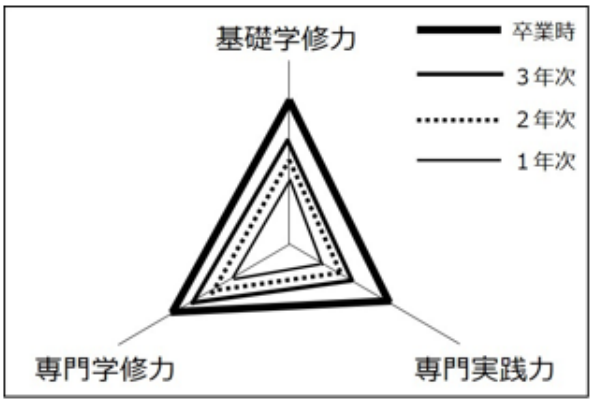
ポートフォリオと IR のイメージ図

【達成度の可視化からディプロマ・サプリメントへの展開】

昨今、達成度の可視化とともに、卒業時の学修成果を客観的に提示する「ディプロマ・サプリメント」が求められている。下図の例では、ディプロマ・ポリシーで求める「基礎学修力」「専門学修力」「専門実践力」などについて、その達成度を数値化・可視化している。各項目の評価は、個別に定めた評価基準や、場合によってはステークホルダー等の外部評価の結果を考慮して数値化される。

UNIV. ○○大学 ○○ university　ディプロマ・サプリメント (Diploma Supplement)

資格保有者			
氏　　名	○○太郎	学籍番号	0123456
生年月日	平成○年○月○日	国　　籍	○○
資　　格			
学　　位	学士（○○学）		
主要学修分野	○○学、△△学		



資格保有者の能力
学位授与方針（DP)で求める要件を備え、○○をしたり、○○をすることができる。

項　　目	1年次	2年次	3年次	卒業時
基礎学修力	2.0	2.5	3.0	3.5
専門学修力	2.0	2.5	3.0	3.3
専門実践力	1.5	2.1	2.8	3.0

4.5　e ポートフォリオシステムの導入形態

e ポートフォリオシステムは、「独自開発」、「パッケージ利用」、「オープンソース利用」の三つに分類できる。どの形態を選択するかは、導入大学の予算規模、既存システムの状況、専門家の有無、活用方法・内容等によって異なり、各大学で検討を要する。

（１）「独自開発」

ここでは、学生の振り返りによる学修習慣の確立の他に、教員の教育改善の促進及び組織的な教育改革を実現するという明確な理念を全学的な場で確認した上で、設計方針を確定していくことが重要である。他方、システムを開発した後でも修正を加えて行くことが多いことから、時間とコストが拡大する可能性が高い。また、導入に伴う開発業者の責任問題として、業者の倒産やサービス撤退など、e ポートフォリオシステムの継続的な運用に協力が得られない場合があるので、業者の選定を厳格にする必要がある。

（２）「パッケージ利用」

ここでは、パッケージソフトの基本機能が中心となっているので、活用方法・内容に適合したものを選択することで比較的導入の手間が少ない。他方、ポータル機能やシラバス機能などオプションとして追加・実装することもできるが、コストの拡大に繋がる可能性が高い。その上で、クラウドサービスを利用する場合には、サーバ設備を管理・運用するメンテナンス費用の負担や担当者の人件費を軽減できるが、長期間に亘る利用となることから、利用料の設定をどのように見通すかが難しい。また、導入に伴う販売業者の責任問題として、業者の倒産やシステムの保守サービス撤退など、e ポートフォリオシステムの継続的な運用に協力が得られない場合があるので、業者の選定を厳格にする必要がある。

（３）「オープンソース利用」

ここでは、無料使用の場合が多い。但し、海外システムではメニューが英語表示になっており、日本語化への費用が発生する可能性がある。システムのバージョンは、比較的頻繁に更新されており、システムに不具合が生じた場合でも対策が講じられている。また、オープンソースを利用する場合には、運用をシステムに合わせる必要がある。しかし、学内の要求に応じたシステムにカスタマイズする場合は、専門の教職員が必須となり、該当者が不在の場合には改めて業者に依頼することが必要となる。そのために、学内に専門家が必要となるため大学での活用が広がらない悩みがある。また、導入に伴う関係者の責任問題として、オープンソースの利用に専門的な知見を有し、維持・運用にリーダーシップを発揮する学内関係者が退職するなど、e ポートフォリオシステムの継続的な運用に協力が得られない場合があるので、複数の関係者を確保しておく必要がある。

最後に、e ポートフォリオ導入校を対象としたアンケート調査にもとづき、導入事例の紹介一覧、e ポートフォリオ運用上の課題と負荷を軽減する工夫等について紹介する。なお、参考となる画面については参考資料として巻末にまとめた。

アンケート調査の対象は、これまでに私情協で参考事例として紹介されてきた大学を中心とし、国公私立 12 校からの回答を得た。導入形態としては独自開発が多く、導入単位および該当学年としては、全学を対象として１年生から３・４年までの導入が目立つ。全体として、学修ポートフォリオとしての活用を基本とし、学習成果の蓄積、学生による振り返りと目標設定、教員からのコメント機能等を共通の機能として装備している。

4.6　e ポートフォリオ運用上の課題と負担を軽減する工夫等

以下、アンケート回答校から寄せられた意見についてまとめる。

e ポートフォリオ運用上の課題としては、教学上の課題と管理上の課題に分かれる。

教学上の課題では、e ポートフォリオを活用する意義や趣旨が学生に十分伝わっていないとことや、e ポートフォリオを活用する科目とカリキュラム全体との関連づけを明確にしていないことがあげられた。また、指導教員から学生へのフィードバックが不十分である点も、課題としてあげられている。

管理上の課題としては、e ポートフォリオを運用する部署に、職員を管理者として置く必要があり、職員の負担が大きくなることがあげられている。

学生や教職員の e ポートフォリオの利用を促進する工夫としては、利用マニュアルの充実、メールマガジンの配信、講習会の開催や、e ポートフォリオへの記入を授業科目の評価の一部とするなどがあげられている。また、技術的な工夫として、学内の様々なシステムにアクセスする際に、一度の ID とパスワードの入力で済む「シングルサインオン」を導入するとともに、学修管理システム(LMS)と e ポートフォリオを連動させる例もみられた。さらに、e ポートフォリオ利用者の情報交換を促進するために、コミュニティの形成が有効であるとの意見もあった。教職員の負担軽減については、学生へのコメントの頻度を考慮して、一教職員に対して負担にならない程度の人数を割り当てるとの工夫があげられた。

大学情報システム研究委員会委員名簿（平成 29 年 3 月 31 日現在）

	氏名	大学・企業名	所属
担当理事	疋田　康行*	立教大学	経済学部教授
〃	大野　髙裕**	早稲田大学	理事
委員長	岩井　洋	帝塚山大学	学長
委員	片岡　竜太	昭和大学	歯学部教授
〃	杉山　由紀男	創価大学	文学部副学部長、教授
〃	小川　賀代	日本女子大学	理学部数物科学科教授
〃	藤本　元啓	崇城大学	総合教育センター教授
ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ	森本　康彦	東京学芸大学	情報処理センター准教授
〃	小松　大*	株式会社朝日ネット	営業二部部長
〃	酒井　智行**	〃	〃
〃	加藤　博文	株式会社ニッセイコム	公共情報事業本部システム第二部部長
〃	奥出　健太郎	株式会社富士通マーケティング	システム本部関西・中部システム統括部関西第二システム部

＊ 平成 25 年度～平成 27 年度（大学・企業名、所属等は当該期間のもの）。

**平成 28 年度より

【参考　e ポートフォリオシステム導入事例の紹介】

1.形態	2.大学名	3.システム名	4.導入単位 導入年	5.利用者数	6.基本機能 ※下線は、次ページ以降で関連画面を紹介	7.eポートフォリオの成績評価への反映	8.学生の振り返り頻度	9.教職員のコメント頻度	10.大学IRや学修管理システムとの連動	11.技術的サポート体制	12.導入費用	13.年間維持費用
独自開発	金沢工業大学	KITポートフォリオシステム	全学 2004年導入	6,700人	・学修成果の蓄積 ・学生の文章による振り返り ・学生による目標設定 ・目標達成度の可視化・数値化等 ・教員からのコメント機能 ・シラバスとの連動	科目評価等の一部として評価	・学年(年度)ごと ・学期ごと ・随時	随時	・IRは連動させる予定 ・学修管理システムは連動させている	学内専任の技術者がいる	5,000万円以上	1,000万円未満
独自開発	大阪府立大学	学習・教育支援サイト	全学 2012年導入	6,000人	・学生の文章による振り返り ・学生による目標設定 ・目標達成度の可視化・数値化等 ・教員からのコメント機能 ・シラバスとの連動 ・モバイル端末からの利用	対象外	学期ごと	学期ごと	・IRは連動していないが、IR活動としてデータ活用はしている ・学修管理システムは連動させている	外部業者等にサポートを依頼している	リース契約で年間維持費のみ	1,000万円以上2,500万円未満
独自開発	大手前大学	el-Campus	全学 2011年導入	2,200人	・学修成果の蓄積 ・学生の文章による振り返り ・学生による目標設定 ・目標達成度の可視化・数値化等 ・教員からのコメント機能	対象外	学期ごと	学年(年度)ごと(但し、コメント入力によるフィードバックを行っている教員は僅かである)	・IRは連動させるか検討中 ・学修管理システムは連動させている	・学内に技術的サポートできる教職員がいる ・外部業者等にサポートを依頼している	1,000万円以上2,500万円未満	1,000万円未満
独自開発	京都光華女子大学短期大学部	短大ポートフォリオ	学科単位 2010年導入	200人	・学修成果の蓄積 ・学生の文章による振り返り ・学生による目標設定 ・目標達成度の可視化・数値化等 ・教員からのコメント機能		週間ポートフォリオは1週間ごと、達成感ポートフォリオは学期ごと	週間ポートフォリオは1週間ごと	IRは連動させている	学内に技術的サポートができる教職員がいる		
独自開発	昭和大学	eポートフォリオシステム	学部単位、4学部連携授業のみ全学に導入 2012年導入	2,800人	・学修成果の蓄積 ・学生の文章による振り返り ・学生による目標設定 ・教員からのコメント機能 ・学生のブログ作成機能	科目評価等の一部として評価	授業ごと	授業ごと	・IRと学修管理システムは連動させる予定	学内に技術的サポートができる教職員がいる	1,000万円未満	1,000万円未満
独自開発	お茶の水女子大学	super alagin 学修ポートフォリオ	全学 2017年導入	3,000人	・学修成果の蓄積 ・学生の文章による振り返り ・学生による目標設定 ・目標達成度の可視化・数値化等 ・モバイル端末からの利用 ・学生主体の学びと研究の促進	科目評価等の一部として評価	随時	していない	・IRは連動させている ・学修管理システムは連動させるか検討中	学内に技術的サポートができる教職員がいる	1,000万円未満	特に費用を要していない

【参考　e ポートフォリオシステム導入事例の紹介】

1.形態	2.大学名	3.システム名	4.導入単位 導入年	5.利用者数	6.基本機能 ※下線は、次ページ以降で関連画面を紹介	7.eポートフォリオの成績評価への反映	8.学生の振り返り頻度	9.教職員のコメント頻度	10.大学IRや学修管理システムとの連動	11.技術的サポート体制	12.導入費用	13.年間維持費用
パッケージ	立命館大学	教職課程 manab folio	全学 2011年導入	2,000人	・学修成果の蓄積 ・学生の文章による振り返り ・教員からのコメント機能 ・モバイル端末からの利用	科目評価等の一部として評価	2年生は年1 回、3年生は学期ごと、4年生は年1回	2年生は年1 回、3年生は学期ごと、4年生は年1回	・IRと学修管理システムは連動させるか検討中	外部業者等にサポートを依頼している	1,000 万円未満	不明
パッケージ	東北学院大学	manaba folio	教職課程履修(2010年) 経済学部(2016年) 2017年度から全学で導入予定	1,500人	・学修成果の蓄積 ・目標達成度の可視化・数値化等 ・教員からのコメント機能 ・モバイル端末からの利用	教職課程は、科目評価等の一部として評価し、経済学部は、まだ対象外。	教職課程は、科目の開講期により学年または学期ごと	教職課程は、学年(年度)ごと	・IRは経済学部で連動させる予定 ・学修管理システムは経済学部で連動させている	・学内に技術的サポートができる教職員がいる ・外部業者等にサポートを依頼している	1,000 万円未満	1,000 万円未満
パッケージ	奈良教育大学	全学ポートフォリオシステム(ﾚｸﾁｬｰｴｲﾄﾞ2ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ)	全学 2014年導入	2,000人	・学修成果の蓄積 ・学生の文章による振り返り ・学生による目標設定 ・目標達成度の可視化・数値化等 ・教員からのコメント機能 ・モバイル端末からの利用	科目評価等の一部として評価	随時	随時	・IRと学修管理システムは連動させるか検討中	外部業者等にサポートを依頼している	2,500 万円以上、5,000 万円未満	導入費用に含まれる
オープンソース	福井県立大学	Mahara	全学 2009年導入	1,600人	・学修成果の蓄積 ・学生の文章による振り返り ・学生による目標設定 ・教員からのコメント機能 ・学生のブログ作成機能 ・モバイル端末からの利用	科目評価等の一部として評価	随時	随時	・IRは連動させる予定 ・学修管理システムは連動させている	外部業者等にサポートを依頼している	1,000 万円未満	1,000 万円未満
オープンソース	酪農学園大学	Mahara	全学 2009年導入	4,000人	・教員からのコメント機能 ・モバイル端末からの利用	対象外	していない	していない	・IRは連動させるか検討中 ・学修管理システムは連動させている	学内に技術的サポートができる教職員がいる	1,000 万円未満	1,000 万円未満

【参考ポートフォリオ画面の目次】

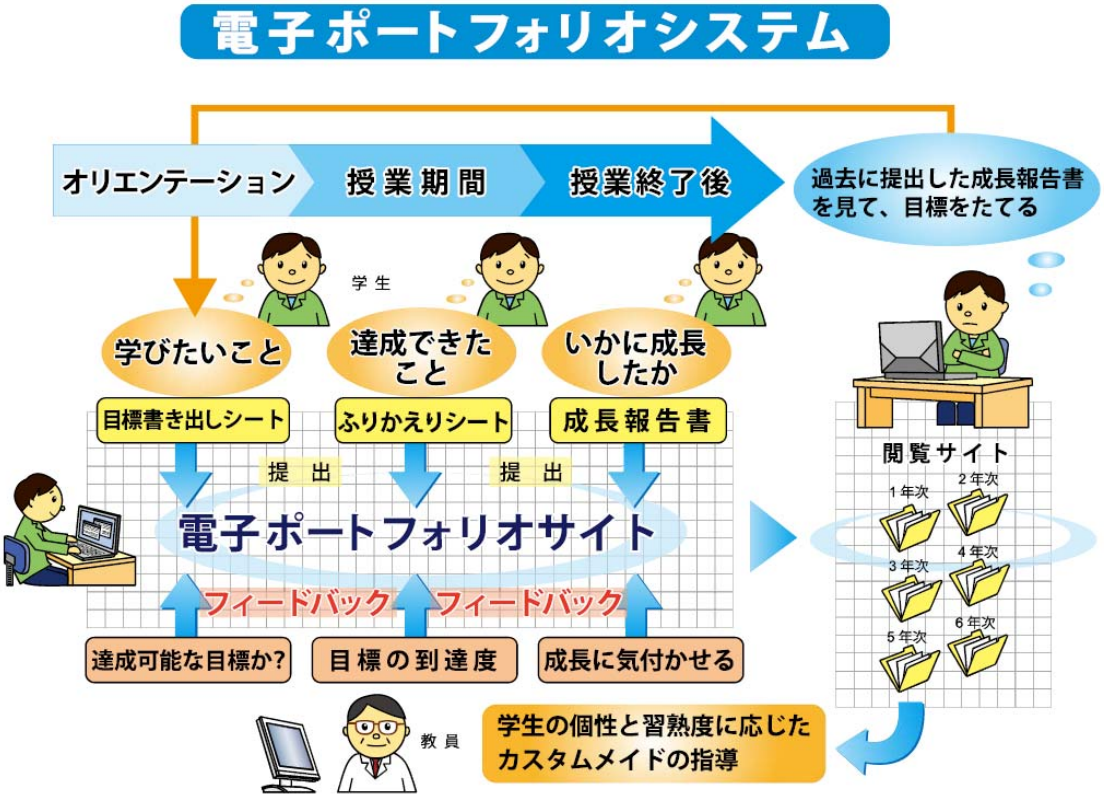
項目	代表画面	資料提供大学
【全体の流れを意識したシステム作り】 P32	eポートフォリオの利用目的や活用方法の流れ図	昭和大学
	個別授業の選択方法	
	提出物、コメント、学修履歴等の確認方法	
	教員の画面	
【メニュー画面】 P34	ポータル画面からeポートフォリオへのアクセス	大手前大学
	eポートフォリオのトップ画面	
	モバイル端末対応による利便性の向上	奈良教育大学
【行動履歴】 P37	1週間単位での行動履歴の記録方法	金沢工業大学
	1週間単位での行動履歴の記録方法	京都光華女子大学 短期大学部
	行動履歴の日誌形式での記述方法	福井県立大学
【学修成果の蓄積】 P40	レポート・成果物の蓄積と振り返り方法	大手前大学
	レポートの提出と履歴の確認	東北学院大学
【振り返りと目標設定】 P42	4年・1年単位の目標設定と学期毎の振り返り	大手前大学
	今年度の目標と達成度の自己評価	金沢工業大学
	教職課程における自己分析シート	立命館大学
【達成度の可視化】 P45	学修達成度の自己評価を数値化	お茶の水女子大学
	学修達成度の自己評価を可視化	大手前大学
【達成度の可視化から授業改善へ】 P47	自己評価とクラス平均値の比較を視覚化	大阪府立大学
	過去に担当した授業の学生自己評価結果一覧	

本参考指針は、PDFファイルで右記URLに掲載しています。 http://www.juce.jp/info-system/port.pdf

【参考資料】

【全体の流れを意識したシステム作り】

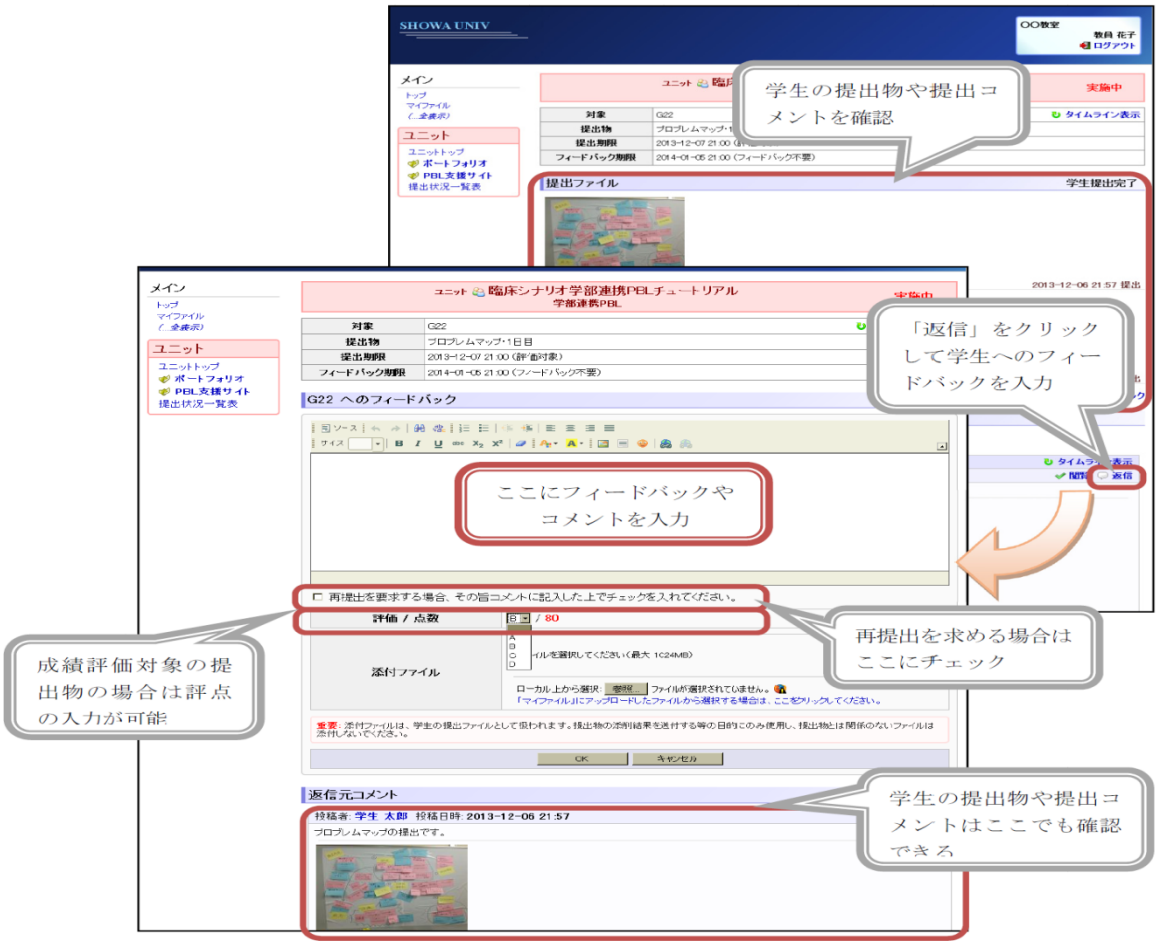
ｅポートフォリオの運用にあたって、ｅポートフォリオの利用目的や活用方法について、全体の流れを意識したシステム作りが重要である。



授業（ユニット）ごとにページ群が用意されており、授業名をクリックすると、個別の授業のトップページに移行する。

授業別のポートフォリオでは、提出物やそれに対するコメント、学修履歴等が確認できる。

教員側の画面では、担当授業の一覧が表示されるとともに、学生の提出物やそれに対するコメントが表示される。



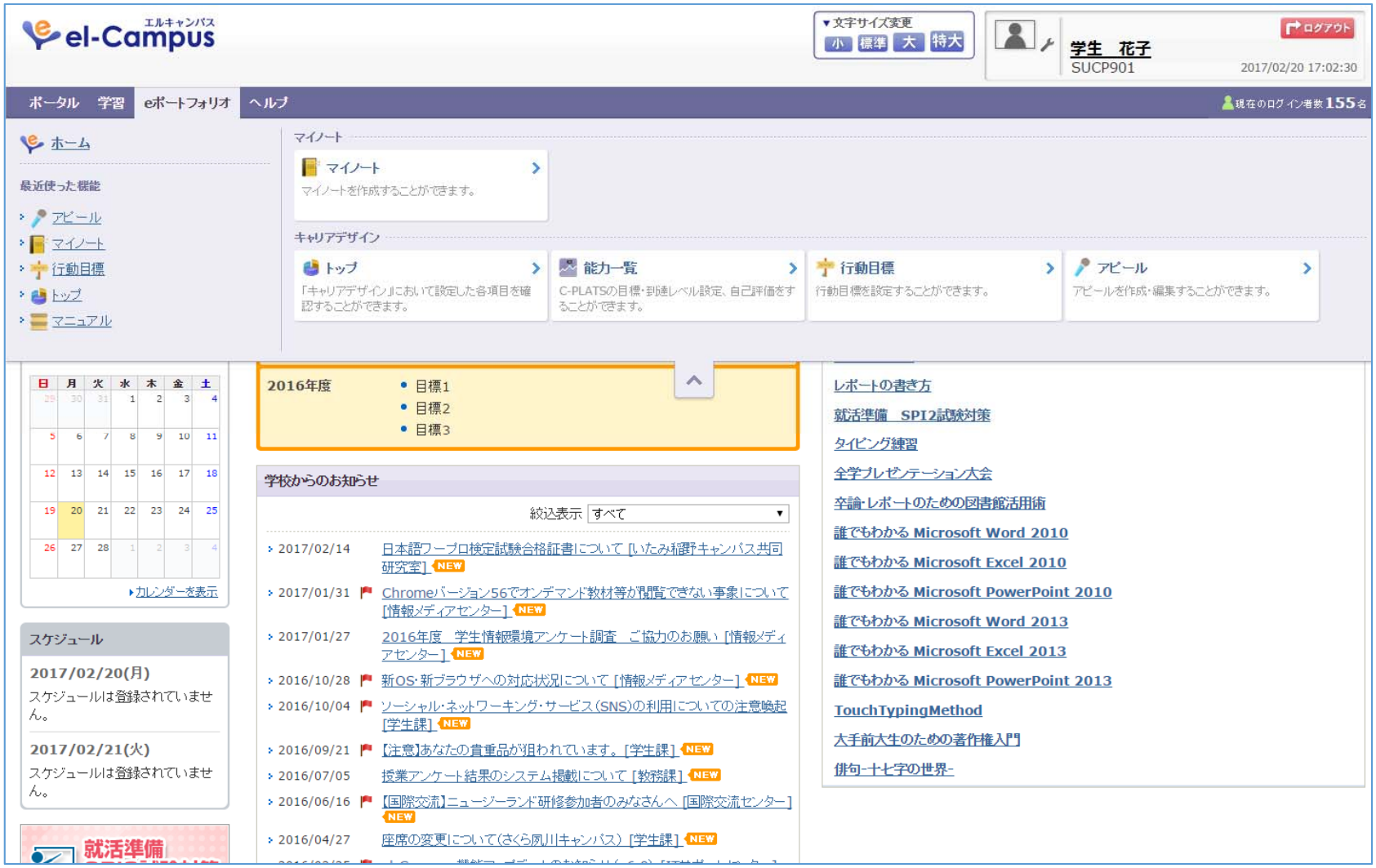
資料提供：昭和大学

【メニュー画面】

学修支援システムのトップページに、大学からのお知らせや課題の提出等、学生にとって必要な情報が一元的にまとめられており、利便性を向上させる工夫がされている。また、e ポートフォリオにはトップページから直接アクセスできる。

資料提供：大手前大学

学修支援システムのトップページからｅポートフォリオに直接移行した画面



資料提供：大手前大学

モバイル端末に対応し、利便性の向上をはかっている。

（学生用メニュー）

（教員用メニュー）

参考：奈良教育大学ポートフォリオ関連の URL　http://www.nara-edu.ac.jp/students/portfolio_top.html

資料提供：奈良教育大学

【行動履歴】

１週間単位の行動履歴を記録するもの。優先順位の高いものを３つあげ、その達成度を◎、○、△で登録する。また、１週間の予習・復習や課外活動、睡眠時間なども記述し、１週間を振り返り、努力した点、反省した点を記述する。

一週間の行動履歴

一週間の行動履歴(2016/6/5～2016/6/11)

編集　印刷　閉じる

レポート内容

※R・・・レポート、P・・・プリント

今週の優先順位(生活・課題等を含め、今週中に達成すべき事柄) ◎：達成できた、○：ほぼ達成できた、△：行動したが未達成、×：行動せず		達成度評価
①	課題を早めに終わらせて、予習に時間を回す	○
②	運動をする、すごく疲れるまで	○
③	エンジンについて勉強する	◎

月/日	曜日	欠席・遅刻科目・理由	予習・復習・課題・所要時間(分)	部活動・利用施設・アルバイトなどの内容・時間帯	食事			睡眠時間(時間)	積極的な運動時間(時間)
					朝	昼	夜		
6/5	日		PD　実験材料　買い出し		レ	レ	レ	6	1
6/6	月		線形代数　課題、予習　６０分	自動車部　5：00～7：00	レ	レ	レ	6	0
6/7	火			アルバイト　5：00～9：00	レ	レ	レ	6.5	0
6/8	水		エンジンの勉強　１２０分	アルバイト　5：00～9：00	レ	レ	レ	6	0
6/9	木		図書文献レポート　１８０分	アルバイト　5：00～9：00	レ	レ	レ	6	0
6/10	金			アルバイト　5：00～9：00	レ	レ	レ	6.5	0
6/11	土		数理工　課題、予習　５０分	アルバイト　9：00～7：00	レ	レ	レ	8.5	0.5

【この1週間で特に努力した点、反省すべき点とその対策、日常生活において困った点などを100から200字で記す】

今週は、課題を早めに終わらせて、エンジンの勉強をしていました。構造、原理、種類など割と詳しく勉強しました。また、今週は自炊を再開しました。正直面倒でしたが、初めの一歩が大事なので続けてみようと思います。この前、車で走っていたら、小さい道から何も見ていない車がひゅっ、っと出てきた危うく事故にあうところでした。それも、今まで何回もそのようなことがありました。石川の運転は悪すぎです。

編集　印刷　閉じる

資料提供：金沢工業大学

同じく１週間単位の行動記録を記録するもの。各週の優先順位と達成度や、予習・復習・課題、部活・バイト、食事、睡眠時間等についても記録するとともに、１週間の振り返りを記述する。また、それに対する教員からのコメントを付す。

1週間の行動履歴

戻る　画面下へ

目標

今週の優先順位(1)(全角100文字)：国際交流センターの催しに参加して、外国人と話をする
達成度評価：◉達成できた　○ほぼ達成できた　○行動したが達成できなかった　○行動しなかった

今週の優先順位(2)(全角100文字)：レポートを仕上げる
達成度評価：◉達成できた　○ほぼ達成できた　○行動したが達成できなかった　○行動しなかった

今週の優先順位(3)(全角100文字)：授業に無遅刻、無欠席を目指す
達成度評価：○達成できた　○ほぼ達成できた　◉行動したが達成できなかった　○行動しなかった

日付		出席情報 1	2	3	4	5	予習・復習・課題	部活・バイトなど	食事 朝	昼	夜	睡眠 (H)
04/19	月						中国語クラスの復習　60分		☑	☑	☑	7.0
04/20	火						健康論Ｉのレポート作成　120分	文化講演会に参加	☐	☑	☑	6.0
04/21	水						なし	アルバイト(4時間)	☐	☑	☑	5.5
04/22	木						情報処理演習Ｉの課題　40分	煎茶部の活動	☑	☑	☑	7.0
04/23	金						なし	国際交流センターの催しに参加	☐	☑	☑	5.0
04/24	土						なし	アルバイト(7時間)	☑	☑	☑	8.0
04/25	日						中国語クラスの予習　60分		☑	☑	☑	10.0

アップロード　参照...　追加
添付ファイルは登録されていません

この1週間で特に努力したこと、反省すべき点とその対策など (全角100文字)
国際交流センターの催しでグループが一緒だった外国人の学生と話をして、楽しかったです。他の催し物にももっと積極的に参加しようと思います。

日常生活で困っていることなど (全角100文字)
なかなか朝が起きれず、1講時の授業を欠席してしまいます。

コメント欄　コメント欄追加

【短大　テス子】
2010/04/28　17:40:58
国際交流のつどいで、外国人の学生と交流できてよかったです。

【短大　テス子】
未登録コメントです

画面上へ

印刷　一時保存　投稿

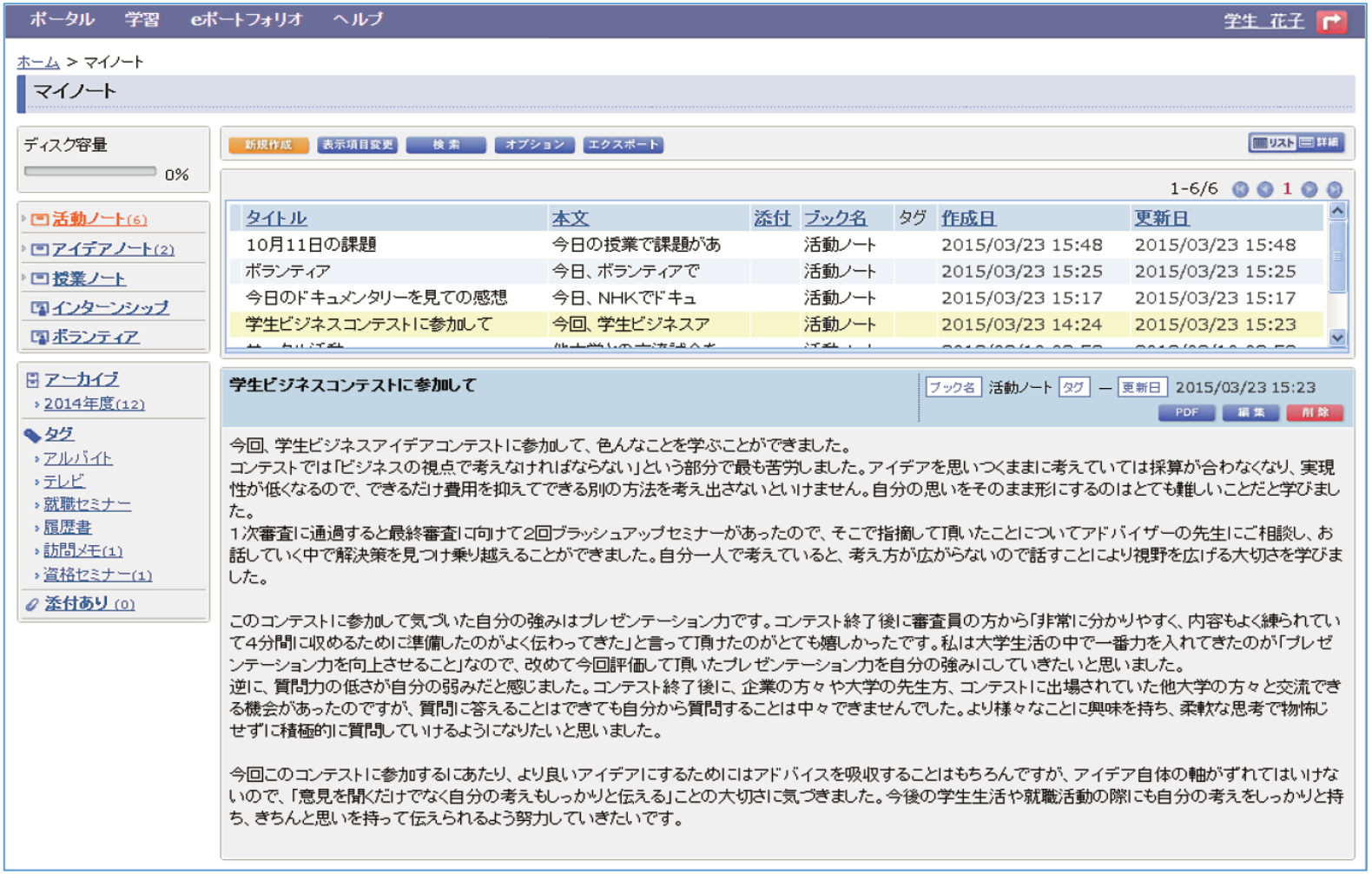
資料提供：京都光華女子大学短期大学部

行動履歴と振り返りを日誌形式で記述させるもの。また、同画面に提出物も表示され、学生同士が相互閲覧できるようになっている。オープンソースを利用したシンプルな画面構成である。

資料提供：福井県立大学

【学修成果の蓄積】

提出したレポートをはじめ、学修や活動の様々な成果物の蓄積ができるようになっている。同時に、様々な活動に対する振り返りを記述できるようになっている。



資料提供：大手前大学

ｅポートフォリオ上でレポートの提出が可能であり、過去に提出されたレポートが蓄積され、閲覧できるようになっている。

資料提供：東北学院大学

【振り返りと目標設定】
４年間を通じた目標と一年ごとの行動目標・学期毎の振り返りを記述する。

資料提供：大手前大学

年度末に今年度を振り返り、目標に対する自分自身の達成度、成果や成長したこと、また次年度の目標についても記述する。

参考：金沢工業大学ポートフォリオ関連の URL　http://www.kanazawa-it.ac.jp/kyoiku/portfolio.html

資料提供：金沢工業大学

教職課程における自己分析シート。教職課程を履修するにあたって、学生に到達目標に対する自己評価を４段階でさせるもの。

衣笠A(法・国関・映像)

コース設定 [redacted]

レポート　評価　掲示板　コレクション一覧

» コレクション一覧

印刷

2016年度「教職自己分析シート1」:衣笠A(法・国関・映像)

分類:教職自己分析シート(教職科目修得単位記録表を含む)

提出者本人と教員のみ閲覧・コメント可のレポート

» [redacted] のポートフォリオを開く

みなさんが引き続き教職課程を履修し、教師への進路を確かなものにしていくためには、絶えず自己をふりかえることが重要です。今後、教職課程を履修していくために、以下の【1】・【2】に関して、自己分析をしてください。また、【3】では、現時点で単位修得済みの教職科目について記入してください。

【1】

これまで履修してきた教職科目を通して、教職についての理解や必要な技能がどの程度高まりましたか。次に教職に必要な到達目標を示しますので、まずは、この項目について自己評価し、現在、自分が4段階のどのような状態にあるかチェックしてください。

A:教員の役割や職務内容に関して理解している(選択必須)
あてはまる

B:学校教育の制度に関して理解している(選択必須)
あてはまる

C:子どもの発達や心理に関して理解している(選択必須)
ややあてはまる

D:学級集団の形成に関して理解している(選択必須)
ややあてはまる

E:新聞等でとりあげられる教育問題に関して理解している(選択必須)
あてはまる

F:社会人としての基本的なマナーやコミュニケーション能力を有している(選択必須)
あてはまる

G:他者と協力してものごとを成し遂げる協調性がある(選択必須)
あてはまる

H:日常ストレスに感じる出来事があっても、適切に対処できる(選択必須)

2016年度「教職自己分析シート1」

トップページ

[redacted]

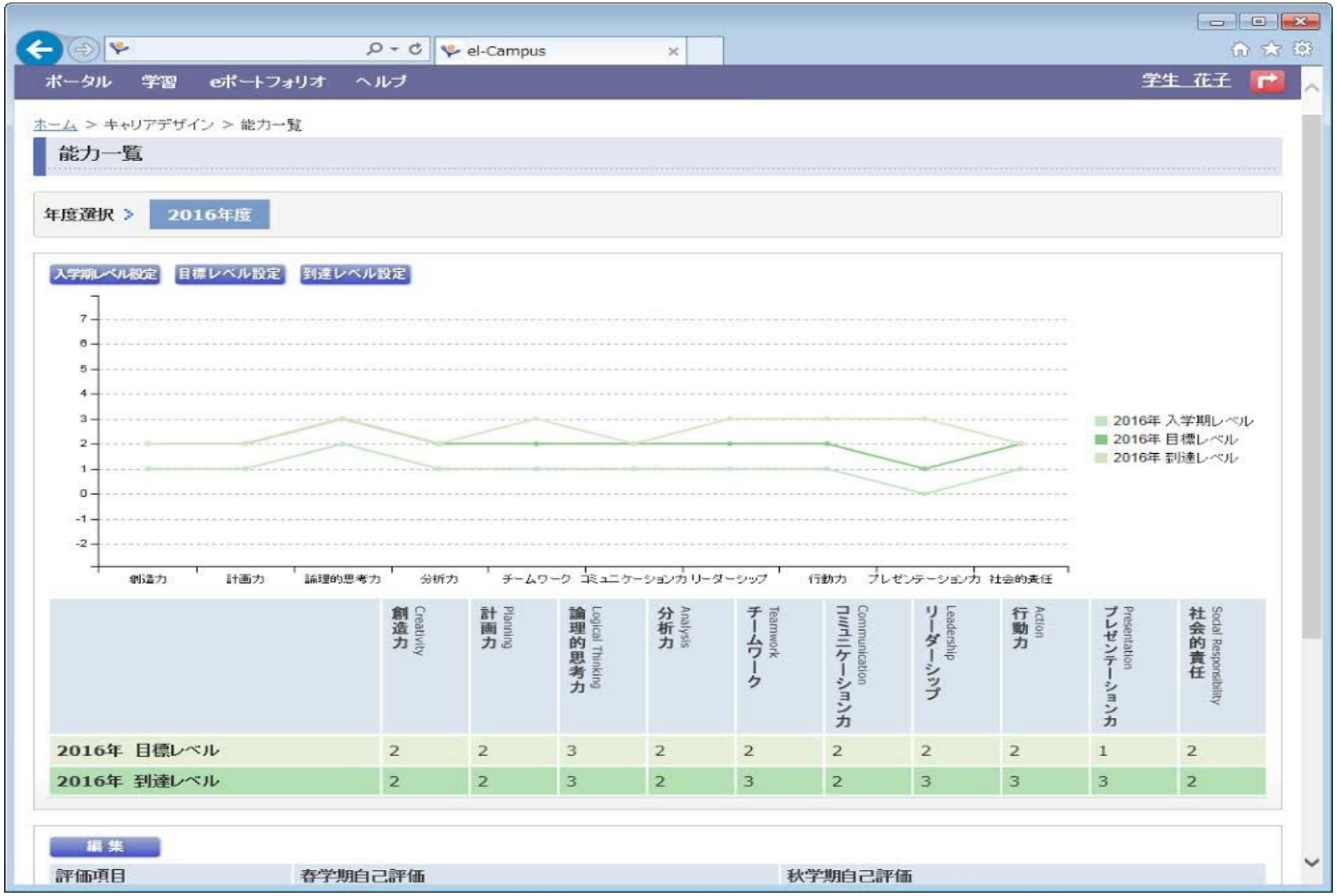
資料提供：立命館大学

【達成度の可視化】

４年間を振り返って、学修達成度を自己評価し、数値化したもの。

資料提供：お茶の水女子大学

大学の独自指標にもとづき、学生が達成度を自己評価し、それを可視化したもの。



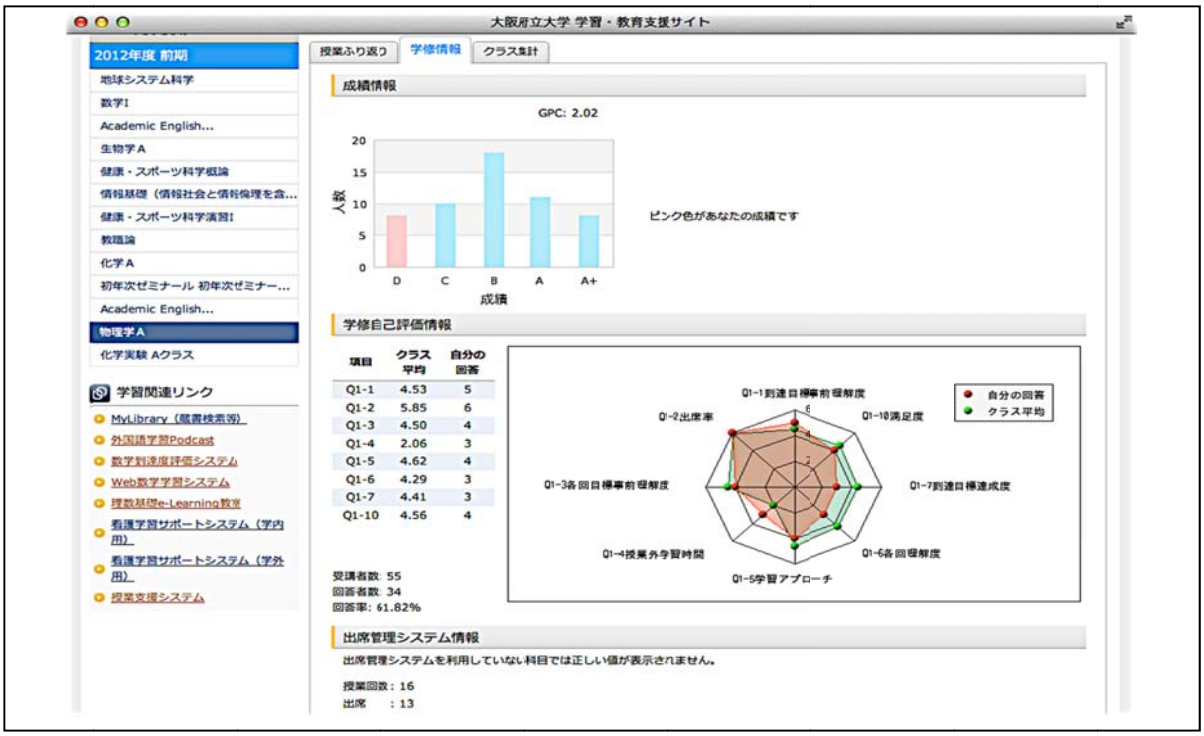
	創造力 Creativity	計画力 Planning	論理的思考力 Logical Thinking	分析力 Analysis	チームワーク Teamwork	コミュニケーション力 Communication	リーダーシップ Leadership	行動力 Action	プレゼンテーション力 Presentation	社会的責任 Social Responsibility
2016年 目標レベル	2	2	3	2	2	2	2	2	1	2
2016年 到達レベル	2	2	3	2	3	2	3	3	3	2

資料提供：大手前大学

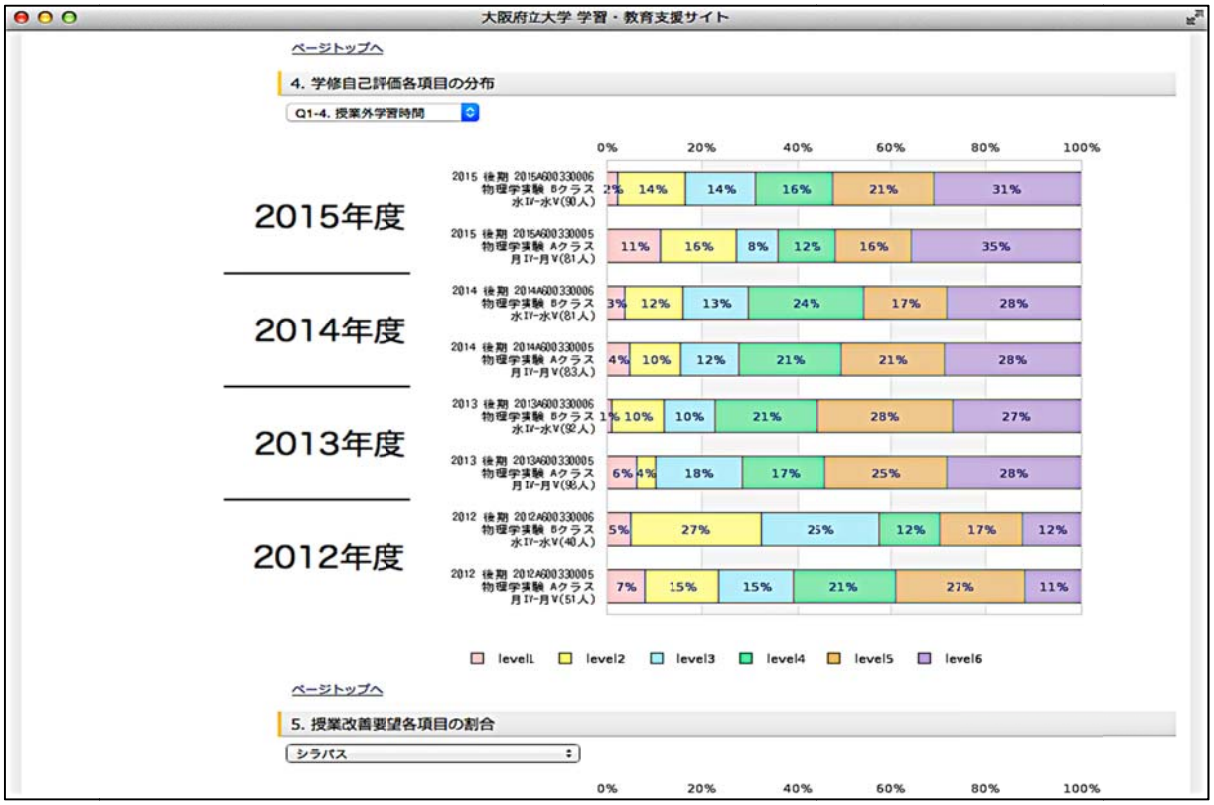
【達成度の可視化から授業改善へ】

各受講科目についての「授業の振り返り」（学修自己評価など）と、『半期の振り返り」を入力する。

学生は、成績情報と「授業の振り返り」（学修自己評価）の情報を閲覧することができる。成績情報については、クラスの成績分布・GPC(Grade Point Class Average)も学生に公開している。学修自己評価については、自身の評価とクラスの平均値との比較がレーダーチャートで表示され、クラスの自己評価分布なども閲覧できるようになっている。



教員は、担当する授業について、学生の学修自己評価の集計結果を見ることができる。また、これまでに担当した授業の集計結果を比較できるようになっている。これにより、一つの授業科目で経年変化を追うことができるようになり、授業改善につなげることができる。



参考：大阪府立大学ポートフォリオ関連の URL
http://www.fd-center.osakafu-u.ac.jp/osakafu-content/uploads/sites/162/2015/06/forum_vol18.pdf

資料提供：大阪府立大学